



2025年度入学者用

学修要覧(学部編)

学修要覧

(学部編)

2025 年度入学者用

立命館大学総合心理学部

総合心理学部

[illegible]

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900 年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第 2 次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006 年 7 月 21 日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018 年 3 月 2 日制定

目次

I. 総合心理学部の教学理念と人材育成目的	1
1. 総合心理学部の教学理念	2
2. 人材育成目的	2
3. 学位授与方針（ディプロマポリシー）	2
4. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	3
5. 総合心理学部における学び	3
II. 総合心理学部の履修・授業	7
1. 総合心理学部での学位取得（卒業）	8
2. 総合心理学部での履修（卒業に必要な単位数）	8
3. 総合心理学部のカリキュラム・系統履修制度	10
4. 教養科目	25
5. 外国語ユニット	33
6. 基礎ユニット	35
7. 専門科目	36
8. 英語アドバンスドユニット	37
9. 研究法アドバンスドユニット	37
10. 実験・実習ユニット	37
11. 多様なアクティブラーニング	38
12. 臨床実践教育	38
13. 卒業研究	40
14. 他学部受講	40
15. 科目ナンバリング	41
III. 学部横断プログラム	49
1. 海外留学について	50
2. 大学間単位互換制度	52
IV. キャリア形成・資格取得	53
1. 大学院進学	54
2. 総合心理学部での学びをもとにした関連する資格	54
V. 学びの支援	57
1. 学生への援助制度	58
VI. 施設紹介	59
1. 大阪いばらきキャンパスでの学び	60
2. 総合心理学部の施設	60
3. こころばスクエアとデータ解析室	60
4. 総合心理学実習ステーション	60
VII. 総合心理学部学部則	61

総合心理学部に入学された皆さんへ

総合心理学部では、専門的知識や教養を幅広く学ぶ講義科目、専門領域の理解を主体的に深める演習、卒業研究そしてプロジェクト研究、実践や体験をともなう実習科目や外国語科目など、多様な科目群を各回生向けに配置しています。学部生の皆さんは各回生で学修した多様な内容を自ら体系づけることが求められることになるでしょう。総合心理学部に入学された皆さんが心理学と隣接領域の知識と方法論を身に付け、社会において活躍されることを願っています。

I. 総合心理学部の教学理念と人材育成目的

1. 総合心理学部の教学理念
2. 人材育成目的
3. 学位授与方針（ディプロマポリシー）
4. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）
5. 総合心理学部における学び

I - 1. 総合心理学部の教学理念

総合心理学部の教学理念は、人間と社会・文化との関係についての深い思慮と、複雑な課題を切り拓く勇気と実行力を備えた未来社会の主体を育成するために、人間の心と行動を探究する心理学とその方法、人間の総合的なあり方を探究する人文社会科学などの関連分野を教育することです。この教学理念は、次のような時代認識と本学部の教学の基本的仕組みに基づいています。

予測困難な時代の中で、家庭、学校、企業、地域社会、国際交流など生活の様々な場において、少子化や多文化化など個々人の選択や個々別々のアプローチだけでは対応できない事象が拡大し、「人間」の総合的・現実的理解に基づいてく公共的で総合的なアプローチが求められています。また生命科学など科学技術の飛躍的な発展によって、人間の生活の全ての場面で、科学的・技術的な操作や介入が可能になり、様々な選択が可能になってきました。現代において「人間とはなにか」「幸福な生き方とはどのようなものか」という問いは、個人の問いであるとともに公共的な問いになっています。

こうした状況の下で、心と行動の科学的解明を軸として人間の総合的かつ現実的理解に基づいた対応できる人材が求められています。また高等教育と研究機関がこうした人材養成に積極的に応えることが求められています。心理学の教育・研究は、人間の心と行動の過程を探究することによって、人間の知的解明に貢献できるだけでなく、人間の総合的・現実的探究にかかわる隣接諸科学と連携して、教育・研究、福祉・医療、行政、企業、国際活動などの分野において、現代の複雑な社会的諸課題の解決に貢献することができます。

本学部の教学の仕組みは、①心理学を総合的に教育・研究するとともに、②隣接諸科学の教育・教養教育・外国語教育との連携によって、総合的な人間力を育成するという、二つの柱によって成り立っています。

本学部の教学の第一の柱は、「心理学を総合的に教育する」ということです。総合科学としての心理学を教育する学部は我が国においてまだほとんど類例がありません。本学部は、基礎心理、応用心理などの心理学の基本的な諸分野を総合的に教育します。

本学部の教学の第二の柱は、人文社会科学など隣接諸科学の教育、また充実した教養教育、さらに先進的な外国語教育を展開することによって、全体として「総合的な人間力を育成する」ことです。本学部は、心理学の人間研究と、人文諸科学や社会諸科学の人間研究とを架橋し、また充実した教養教育、先進的な外国語教育を行うことによって、ますますグローバル化する現代社会に求められる総合的な人間力を育成します。

I - 2. 人材育成目的

総合心理学部は、心理学の総合的・体系的な教育と、隣接する専門分野の教育・教養教育・外国語教育を通じて、人間の心と行動に関する専門的力量と人間理解に関する幅広い教養を具えて、教育・研究の分野、福祉・医療の分野、行政・企業の分野などにおいて、複雑化する課題の解決に貢献する人材の育成を目的とする。

I - 3. 学位授与方針（ディプロマポリシー）

総合心理学部では、人材育成目的に向けて、卒業時において学生が身に付けるべき能力（教育目標）を設定しています。所定の単位（124単位）の修得をもって、教育目標の達成とみなし、学士（心理学）の学位を授与します。

教育目標

1. 心理学の諸分野の基礎知識に基づいて、人間の心と行動を科学的に探究し思考することができる。
2. 幅広い教養に基づいて、心理学的知見を他の分野の知見と関係づけて、人間を総合的・多面的に理解することができる。
3. 人間と人間関係について多面的な関心をもち、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働し、問題解決に貢献することができる。
4. 日本語と外国語の基本的なコミュニケーション能力をもち、情報やデータを加工し分析する基礎的能力を身に付け、自らの見解を論理的に主張することができる。
5. 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を身に付けている。

I - 4. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

総合心理学部では、教育目標を達成するために、次のような教育を行います。

- (1) 人間の心と行動を科学的に探求し思考する力を養成するために、心理学の総合的・体系的教育を行います。
- (2) 人間を総合的に理解し関わる力を養成するために、心理学的知見を他の分野の知見と関係づける幅広い教養を育てる教育を行います。
- (3) 問題解決に貢献する力と態度を形成するために、人間と人間関係について多面的な関心を育て、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働する教育を行います。
- (4) 自らの見解を論理的に主張する力を養成するために、日本語と外国語によるコミュニケーション能力、情報やデータを加工し分析する力を形成する教育を行います。
- (5) 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を育てる教育を行います。

総合心理学部の教育目標は次のようなカリキュラム上の工夫として具体化されています。

1. 「人間の探求」を中心目標としたカリキュラムの体系化

心理学の諸分野の系統的・総合的な教育と、隣接する人文・社会科学などの教育を連携させて、「人間の総合的理解」を達成します。

2. 学習者が自分の成長を確認しやすくするための工夫

専門科目と外国語科目は、ユニットで分かりやすく配置されており、より高度な科目はアドバンスドユニットとして明示されています。

3. ユニット制による自由度が高くグローバルな学び

専門科目の3ユニットおよび6つの領域、履修モデルの2つのガイドを利用して多様な学び方ができます。本学部での心理学の学修は、11ユニットおよび教養科目の学びと6つの履修モデルによって行われます。想定する進路を意識しながら基礎ユニット、専門科目の各ユニット、アドバンスド科目の各ユニットなどを組み合わせて学ぶことができます。将来、公認心理師の国家資格取得を目指す人は、公認心理師科目を履修し大学院へ進学します。専門科目における3つのユニット（認知・行動ユニット、発達・キャリアユニット、社会・文化ユニット）は取得するべき単位数の縛りのない、領域の組み合わせという緩やかなまとまりとして構成されています。

4. 充実した実験実習とフィールドワーク

本学部では、専門性に基礎づけられた学習（Discipline Based Learning）とともに、課題解決型の学習（Problem Based Learning、Project-Based Learning）などのアクティブラーニングの方法を学部の基本的な学習スタイルとして位置づけます。本学部でのアクティブラーニング（PBL など）の第一の柱となるのが、実習・フィールドワーク系の科目です。本学部の充実した実習施設を活用して系統的に編成された実習科目と、地域や現場と連携したフィールドワークにより実感と深い納得をともなった実践力を養成する教育を行います。

5. 発信力の形成とスキルの形成を組み合わせた先進的な英語教育

学習プロジェクトの発表とスキル形成学習を組み合わせたPBL型の授業によって、心理学の学修と結びついた実践的な英語能力と他者と協働する力を形成します。PBL型の英語教育科目は、本学部でのアクティブラーニングの第二の柱となります。

6. 1回生から4回生まで各回生での演習と卒業論文必修

本学部でのアクティブラーニング（PBL など）の第三の柱となるのが、小集団で行われる各回生の演習科目です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「展開演習」「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を1回生から4回生まで開講し、丁寧な小集団教育によって、専門的な学力とともにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、幅広い応用力、他者と協働する力を育成します。

I - 5. 総合心理学部における学び

総合心理学部における学び

総合心理学部は、心理学と隣接領域を体系的に学修する環境を提供します。皆さんは、人間の心と行動を科学的に探求する方法とその意味を学び、人間と人間関係に関する関心、個性と多様性を尊重する態度、そして関連する諸分野の知識を深めていくことができます。また、人間の行動や態度などに関するデータを分析するための基礎的能力や、日本語や英語を用いたコミュニケーション能力を養うことができます。総合心理学部は、現代社会の諸課題の解決に貢献する人材を育成することを目指します。

【外国語ユニット】

総合心理学部の外国語教育では英語を重点的に学修します。1・2回生は、基本的なスキル（発音、文法、語彙など）を中心に学ぶ科目と並行して、英語を用いたコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を育成する科目を受講します。授業では実践的な英語教育が展開され、受講生は英語の運用能力を高めることができます。心理学と隣接領域の内容が英語でどのように表現されるのかを学習することも含まれます。

【基礎ユニット・教養科目】

基礎ユニットは、総合心理学部の「教育目標③人間と人間関係について多面的な関心を持ち、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働し、問題解決に貢献することができる。」と「教育目標④日本語と外国語の基本的なコミュニケーション能力を持ち、情報やデータを加工し分析する基礎的能力を身に付け、自らの見解を論理的に主張することができる」に主として対応する科目群です。

総合心理学部での学修や研究の基本的方法を学ぶ「総合心理学入門」「リテラシー入門」や学問の枠組みを越えて心理学について考える「社会の中の心理学」をはじめとして構成されています。基礎ユニットには、「心理学概論」、「臨床心理学概論」のような総論的科目、「心理学統計法Ⅰ」、「心理学研究法」のような研究方法に関する科目、「心理学史」のような基礎知識に関する科目、そして「精神疾患とその治療」「医学総論（人体の構造と機能及び疾病）」「公認心理師の職責」「関係行政論」のように公認心理師を目指すうえで必要となるテーマを扱う発展的科目があります。また、社会人として身に付けるべき知識を学修する教養科目が多数開講されます。

【専門科目】

心理学と隣接領域に関する専門知識は、学部の「基礎ユニット」に加え、心理学の専門教育の分野を「認知・行動ユニット」「発達・キャリアユニット」「社会・文化ユニット」の3ユニットに区分される「専門科目」を受講することで体系的に学修することができます。

総合心理学部では、心理学とともに隣接領域の学修を重要な柱としています。人文学・社会科学の分野の科目は専門科目の各ユニットに配置されています。思想や哲学に関する科目として「人間観の探求」、「政治と人間」があります。家族や組織を扱う科目として「家族と人間」、「現代人間論」、「組織と人間」、「組織行動論（産業・組織心理学）」があります。また経済に関する科目として「経済と人間」、「行動経済論」があります。

総合心理学部の学生は、2回生になるまでに6つの履修モデルのうち、どのモデルに沿った履修計画を立てていくかイメージが見通せるようになる必要があります。

それぞれのユニットに含まれる専門科目を受講することで、心理学の知識を体系的に学修することができます。履修モデルに含まれていない専門科目の授業も受講できますから、心理学と隣接領域に関する幅広い知識を得ることができます。

【英語アドバンスドユニット・研究法アドバンスドユニット】

英語アドバンスドユニットでは、「海外フィールドスタディ」と「専門英語（心理学）Ⅰ・Ⅱ」から構成され、学術論文を英語で読むことや英語によるプレゼンテーションを行ったり、海外での実践的な英語コミュニケーションを体験します。

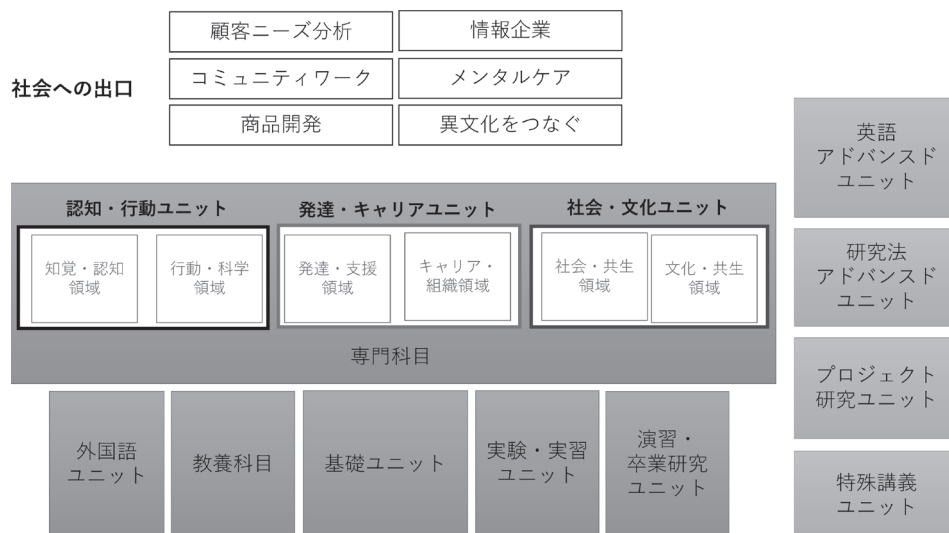
研究法アドバンスドユニットでは、心理学の高度な統計手法と研究法を学習します。

【プロジェクト研究ユニット】

プロジェクト研究ユニットでは、教員の行う専門的なプロジェクトに参加し、研究の実体験を行うPBL型授業です。

【特殊講義ユニット】

特殊講義ユニットは、3つの専門ユニットのそれぞれの最新の学術的なトピックスを取り上げ、その概要とこれまでの研究との関連、今後の研究の方向について学びます。

【専門科目】
(続き)

【演習・卒業研究ユニット】

1 回生は「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2 回生は「展開演習」、3 回生と 4 回生は「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業を受けます。演習では総合心理学部で展開される多様な学問領域と関連するテーマについて自主的に、個人あるいは集団で学習します。テーマと関連する文献を調べたり、調査や実験を行ったりすることによってテーマに関する理解や問題意識を深めることができるでしょう。

1 回生から 4 回生までの演習科目を受講するとともに、4 回生では「卒業研究」に従事します。「卒業研究」では、これまでの学修の成果として卒業論文を提出します。卒業論文では一つのテーマに関する専門的知識を独自の観点からまとめるとともに、新たな問題意識を提案することを目指します。そのためには、先行研究の整理や研究方法の工夫が必要になるでしょう。また、研究結果を分析する有効な手法を学ぶことが求められるでしょう。

なお、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」のクラスを選択する際、選考が行われます。選考を行う際は、以下の科目の成績が考慮されます。

「心理学概論」

「心理学実験Ⅰ」

「心理学実験Ⅱ」

「認知心理学概論（知覚・認知心理学）」

「発達心理学概論（発達心理学）」

「社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）」

【実験・実習ユニット】

総合心理学部では 1 回生秋学期に「心理学実験Ⅰ」を、2 回生春学期に「心理学実験Ⅱ」を開講します。これらの科目では、心理学実験の実習を通して実証的方法に基づく心理学の基礎を学びます。

3 回生秋学期には「臨床・実践演習（心理演習）」を、4 回生には「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」を開講します。「臨床・実践演習（心理演習）」では、心理学的支援に関する知識と技能について具体的な場面を想定したロールプレイングなどを通して実践的に学びます。「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」では、学外の施設において見学などによる実習を行いながら心理学的支援について学びます。

「臨床・実践演習（心理演習）」および「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」については、履修に伴う条件があります。詳しくは、「Ⅱ - 12. 臨床実践教育」の説明を見てください。

Ⅱ．総合心理学部の履修・授業

1. 総合心理学部での学位取得（卒業）
2. 総合心理学部での履修（卒業に必要な単位数）
3. 総合心理学部のカリキュラム・系統履修制度
4. 教養科目
5. 外国語ユニット
6. 基礎ユニット
7. 専門科目
8. 英語アドバンスドユニット
9. 研究法アドバンスドユニット
10. 実験・実習ユニット
11. 多様なアクティブラーニング
12. 臨床実践教育
13. 卒業研究
14. 他学部受講
15. 科目ナンバリング

Ⅱ - 1. 総合心理学部での学位取得（卒業）

総合心理学部の教育課程の編成方針、学位授与方針に従って卒業に必要な条件を満たすと、学士の学位を取得する（卒業する）ことができます。

総合心理学部で取得できる学位は、以下の通りです。

学士（心理学）

Ⅱ - 2. 総合心理学部での履修（卒業に必要な単位数）

卒業に必要な単位数

学士（心理学）の学位を得る（卒業する）ためには、① 4 年以上在学し、かつ、②下表の通り各科目区分ごとに定められる必要な単位を修得する必要があります。

なお、外国人留学生の方は履修方法が一部異なります。詳しくはP.34 を参照してください。

科目区分			必要単位数		
外国語ユニット			① 8 単位以上		
教養科目			② 24 単位以上		
基礎ユニット			③ 20 単位以上		
専門科目	認知・行動ユニット	知覚・認知領域	④ 専門科目から 30 単位以上	④ および ⑤を満 たした うえで 40 単 位以上	124 単位 以上
		行動・科学領域			
	発達・キャリアユニット	発達・支援領域			
		キャリア・組織領域			
	社会・文化ユニット	社会・共生領域			
		文化・共生領域			
アドバンスド科目	英語アドバンスドユニット		⑤ 6 単位以上		
	研究法アドバンスドユニット				
	プロジェクト研究ユニット				
	特殊講義ユニット				
小集団科目	実験・実習ユニット		⑥ 1 単位以上		
	演習・卒業研究ユニット		⑦ 4 単位以上		

※外国人留学生の方は、P.34 を確認してください。

卒業見込証明書発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機で発行できます。（発行時に 100 円 / 通の手数料が必要）

【発行基準】

① 第 7 学期以降であること

* 「履修状況確認」に表示されている「現セメスター」が、7 セメスター以降であること。
（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）

② 「在学」中または「留学」中であること。（休学中は発行できません）

③ 以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

※ 第 8 学期（8 セメスター）以降の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります。なお、当該学期卒業日もしくは翌学期卒業日の両方の基準を満たしている場合は、当該セメスターの卒業見込日が記載された証明書が発行されます。（卒業見込日を選択することはできません）

卒業見込証明書発行
基準
(続き)

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日（下記参照）
第7学期（7セメスター） 学期開始日（＊）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上	翌学期卒業日
第8学期以降（8セメスター以降） 各学期開始日（＊）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上 99 単位以下	翌学期卒業日
	100 単位以上	当学期卒業日

＊システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3月20日

1 学期間に履修科目として登録することができる上限単位数は、以下のとおりです。

なお、入学後、最初の学期は第1学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します。（編入学・転入学を除く）。自身の現在の学期は、履修状況確認画面に記載されている「現セメスター（現学期）」でも確認可能です。

(学期ごとの受講登録上限単位数)

1 回生		2 回生		3 回生		4 回生以上		5 回生以上
第1 学期	第2 学期	第3 学期	第4 学期	第5 学期	第6 学期	第7 学期	第8 学期	第9 学期
20	20	20	20	22	22	24	24	24

【通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い】

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において1/2分の単位数をカウントします。
(例) 通年4単位科目を受講登録した場合、春学期に2単位、秋学期に2単位分をカウントします。

【登録上限外科目】

- 以下の科目は、登録上限単位数に含まれません。
- ・海外フィールドスタディ・国内フィールドスタディ
 - ・平和人権フィールドスタディ・コーオプ演習（理論）・コーオプ演習（実践）
 - ・留学帰国時に単位認定される科目（プログラムによって登録上限単位数に含まれる場合もありますので参加するプログラムの募集要項等で必ず確認してください）

以下のプログラムに参加した者に限り、上限単位数を以下のとおり緩和します。

(特例扱いとするプログラム) 学籍異動を伴う海外留学プログラムに参加した者
(上限単位数) 30 単位

(適用時期) 学籍異動を伴う「留学」から帰国した次のセメスター

Ⅱ - 3. 総合心理学部のカリキュラム・系統履修制度

総合心理学部のカリキュラムの考え方とその具体化

1. 「人間の探求」を中心目標としたカリキュラムの体系化

心理学の諸分野の系統的・総合的な教育と、隣接する人文・社会科学などの教育を連携させて人間を探求し、人間の総合的な理解を達成します。

2. 学習者が自分の成長を確認しやすくするための工夫

専門科目と外国語科目は、回生配当などで分かりやすく配置されており、また、多様な履修モデル、カリキュラム・マップ等により、そのつどの到達目標と学修の段階を明示します。アカデミックアドバイジング（上回生や大学院生による学習アドバイス）の充実を図ります。

3. 心理学の二つの学び方、領域別の学びと分野横断的な学びの組合せ

総合心理学部での心理学の学習は、自身の進路を考えながら履修モデルに沿ってユニットを組み合わせて履修を進めます。ユニットは複数の科目から構成される科目のまとまりで、基礎ユニット、外国語ユニット、3つの専門ユニット（それぞれ2つの領域から構成される）、英語アドバンスドユニット、研究法アドバンスドユニット、プロジェクト研究ユニット、特殊講義ユニット、実験・実習ユニット、演習・卒業研究ユニットから構成されています。

3つのユニット・6つの領域による専門分野での系統履修と、各ユニット間を往還する科目として、臨床心理士、公認心理師などの資格を取得する学生への基礎教育を行う科目である対人援助実践教育科目と海外留学、多文化研究等を志向する学生への基礎的な学びとなる国際教育科目が設定されています。

4. 充実した実験実習とフィールドワーク

総合心理学部では、専門性に基礎づけられた学習（Discipline Based Learning）とともに、問題解決型の学習（Problem Based Learning、Project-Based Learning）などのアクティブラーニングの方法を学部の基本的な学習スタイルとして位置づけます。

総合心理学部でのアクティブラーニングの第一の柱となるのが、実験実習とフィールドワーク系の科目です。実験・実習やフィールドワーク系の科目は心理学の教育・学習にとって不可欠な基幹的構成要素として位置づけています。特に「心理学実験Ⅰ」は必修科目としています。

5. 発信力の形成とスキルの形成を組み合わせた先進的な英語教育

1、2回生配当の英語教育は発信型の授業とスキル形成型の授業を組み合わせたPBL方式の授業とし、心理学の学修と結びついた実践的な英語能力を形成します。PBL方式の英語教育科目は、総合心理学部でのアクティブラーニングの第二の柱となります。

6. 1回生から4回生まで各回生での演習と卒業論文必修

総合心理学部でのアクティブラーニングの第三の柱となるのが、小集団で行われる各回生の演習科目や教員の研究プロジェクトに参画する「プロジェクト研究」です。

演習科目は、1回生から4回生まで全ての回生で開講し、1回生では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2回生では「展開演習」、3回生と4回生では「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を置きます。3回生の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」と4回生の「専門演習Ⅲ・Ⅳ」は合同開講とします。これらの演習は専門ユニット別の科目ではなく、学部共通の科目として開講し、専門的な学力とともにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、幅広い応用力を育成します。

また、1回生から参画することができる「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅷ」は回生ごとに到達目標をきめ細かく定めており、4年間を通じて体系的・実践的な研究力を身につけることができます。

学士課程での学修の集大成として、また、卒業時の質保証の要として、卒業論文の作成となる「卒業研究」を必修としています。

なお、「基礎演習Ⅰ」では研究参加クレジット制度での1クレジットの取得が単位取得の条件となっています。研究参加クレジット制度とは、1・2回生を対象に、心理学の専門的なテクニックを駆使した実証的研究や多様な研究活動への参加を通して、思考力を育成し、自主的で自律的な学修態度を養うことを目的とした制度です。研究参加クレジット制度の詳細については、manaba+R「研究参加クレジット」(https://ct.ritsumei.ac.jp/ct/page_1230670c1217650)を参照してください。

総合心理学部のカリキュラムの考え方とその具体化 (続き)

7. コア科目の設定

総合心理学部のカリキュラムでは、心理学および隣接する分野の基盤となる知識と技能、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けるための中心的な科目で履修を強く勧める「コア科目」として設定しています。「コア科目」は次の通りです。

科目名	単位数	配当年次	ユニット
英語 P1	1	1 回生	外国語ユニット
英語 P2	1	1 回生	
英語 P3	1	2 回生	
英語 P4	1	2 回生	
リテラシー入門	2	1 回生	基礎ユニット
総合心理学入門	2	1 回生	
心理学概論	2	1 回生	
社会の中の心理学	2	1 回生以上	
心理学研究法	2	1 回生	
心理学統計法 I	2	1 回生	
心理学統計法 II	2	1 回生以上	研究法アドバンスドユニット
心理的アセスメント	2	2 回生以上	認知・行動ユニット
心理学実験 I	1	1 回生	実験・実習ユニット
心理学実験 II	1	2 回生	
基礎演習 I	2	1 回生	演習・卒業研究ユニット
基礎演習 II	2	1 回生	
展開演習	2	2 回生	
専門演習 I	2	3 回生	
専門演習 II	2	3 回生	
専門演習 III	2	4 回生	
専門演習 IV	2	4 回生	
卒業研究	4	4 回生	

8. 履修モデル

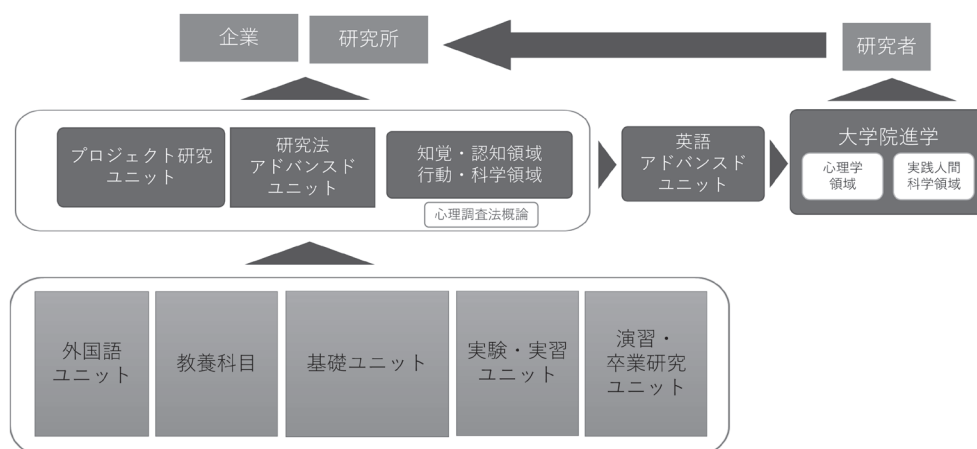
総合心理学部では、次ページに示す各ユニット科目を配置して、進路を考えながら心理学の分野の系統的な履修を行います。次ページに6つの履修モデルを示しています。履修モデルは、あくまでもモデルであり、学生の皆さんの履修科目を制約するものではありません。履修モデルとカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを参考に履修計画を立てていきましょう。

総合心理学部のカリ
キュラムの考え方と
その具体化
(続き)

履修モデル1：心理学マインドを持つデータ分析・実験

企業や研究所に勤めて、データを分析したり実験をする仕事

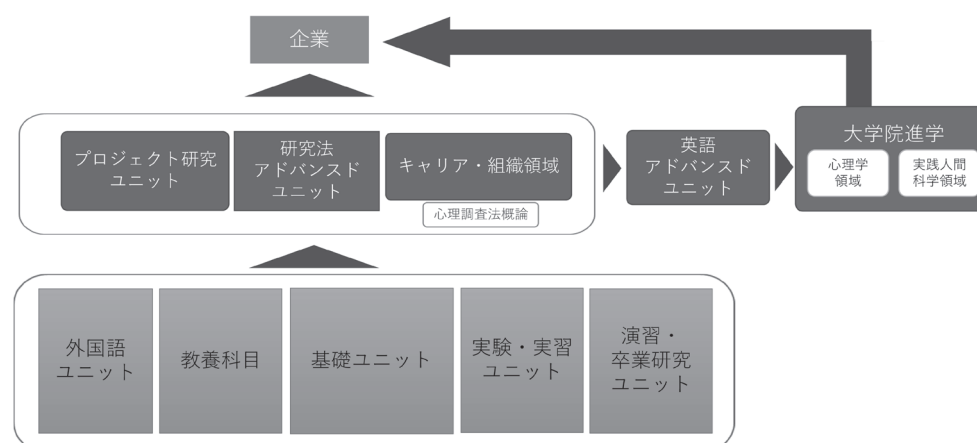
基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーを身につけ、心理学の実験科学の専門的知識と技術を身につけます。実験を通じた人間理解と量的データの高度な分析手法を学びます。



履修モデル2：心理学マインドを持つ調査とデータ分析

企業に勤めて、調査、商品開発、データ分析をする仕事

基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーを身につけ、組織行動、行動経済学などを学び、調査やビックデータを扱う知識と技術を身につけます。

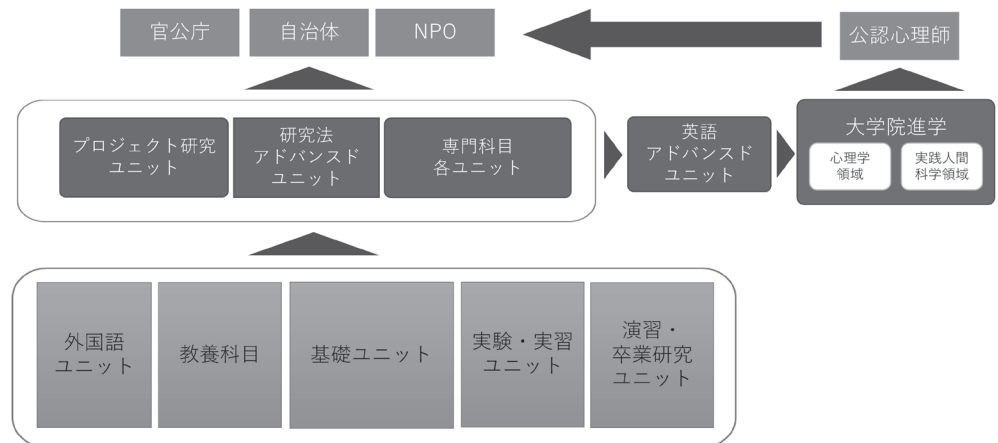


総合心理学部のカリキュラムの考え方とその具体化
(続き)

履修モデル3：コミュニティーワークに従事する

公務員、NPOなどでコミュニティに貢献する仕事

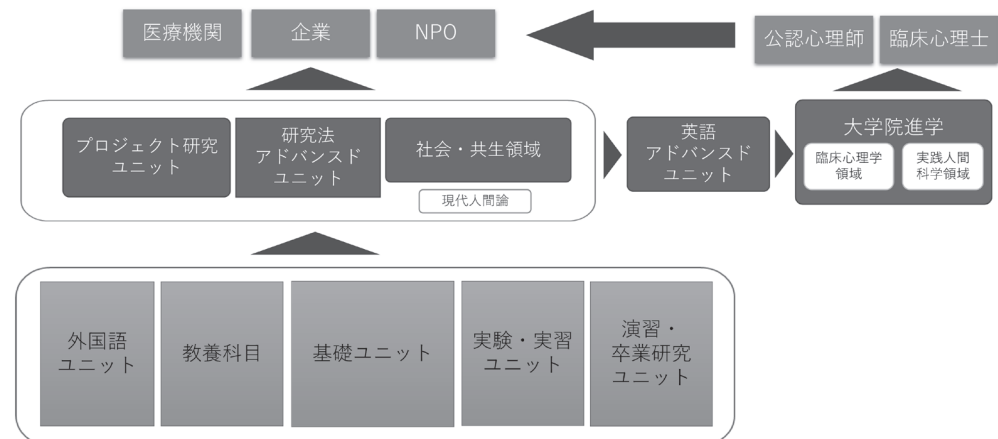
基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーを身につけ、NPO職員や公務員として地域での活動をサポートし、活動するために必要な知識と技術を学びます。



履修モデル4：メンタルケアに従事する

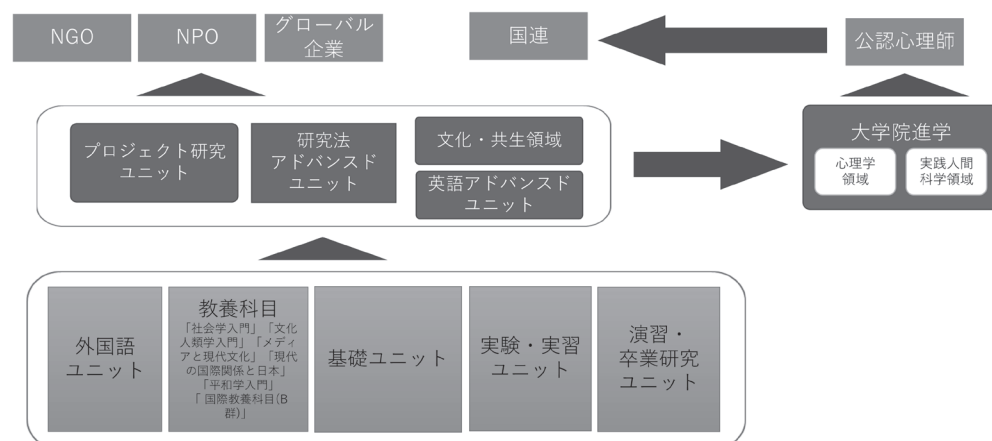
病院、企業、NPOなどでメンタルケアに貢献する仕事

基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーを身につけ、メンタルケアの知識と技術を学びます。

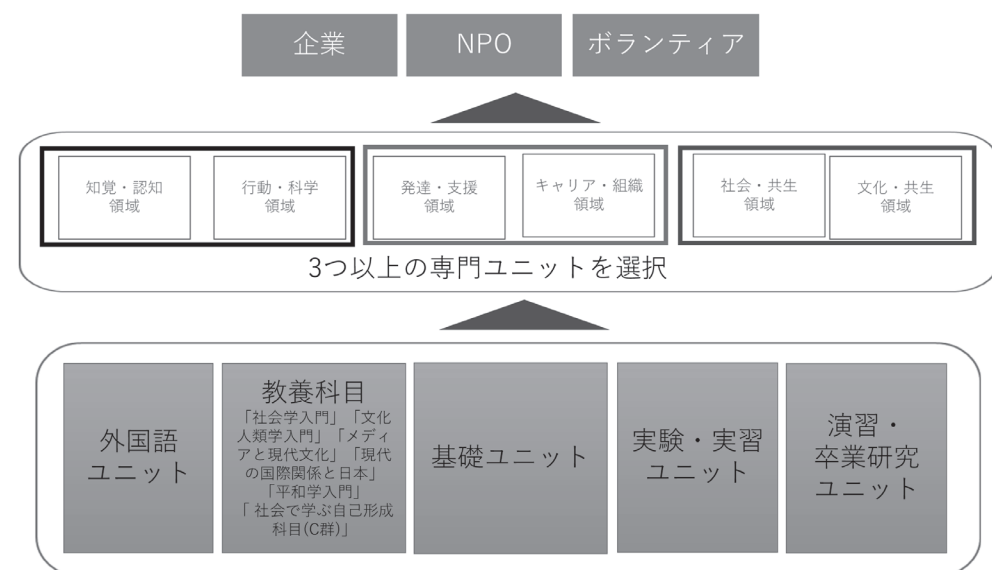


総合心理学部のカリキュラムの考え方とその具体化 (続き)

履修モデル5：グローバルで多文化な社会で異文化をつなぐことに貢献する
国連や NGO、NPO、グローバル企業などで貢献する仕事
基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーを身につけ、グローバルな社会で
貢献するための知識を学ぶ。幅広い一般教養を身につけ語学力を高めることを目指します。



履修モデル6：心理学のジェネラリストとして社会に参加する
企業や NPO などへの就職、ボランティアへの参加によって自己形成し、社会に貢献する。
基礎ユニットで心理学の基礎と社会人としてのリテラシーと幅広い一般教養を身につけ心理学のジェネラリストとして社会に参加します。



カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー

- 総合心理学部では、次のカリキュラム・ポリシーを定めています。
- (1) 人間の心と行動を科学的に探求し思考する力を養成するために、心理学の総合的・体系的教育を行います。
 - (2) 人間を総合的に理解し関わる力を養成するために、心理学的知見を他の分野の知見と関係づける幅広い教養を育てる教育を行います。
 - (3) 問題解決に貢献する力と態度を形成するために、人間と人間関係について多面的な関心を育て、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働する教育を行います。
 - (4) 自らの見解を論理的に主張する力を養成するために、日本語と外国語によるコミュニケーション能力、情報やデータを加工し分析する力を形成する教育を行います。
 - (5) 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を育てる教育を行います。

カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー
(続き)

総合心理学部で開講される全ての科目（教養科目は除く）について、教育目標のどの項目と強く関連しているのかを示すのがP.21のカリキュラム・マップです。◎はその科目で主に達成されるべき教育目標を、○は主とはならないものの達成されうる教育目標を示しています。ある科目について◎や○のついていない目標については、無関係というわけではありません。全ての科目が、総合心理学部の全ての教育目標を達成するために役割を果たしていますが、特に主要な項目に◎、○がつけられていると考えてください。

一人の学生が全ての開講科目を受講することはできません。総合心理学部の主要な科目によって、学生の皆さんが成長するイメージをつかむために表したものがP.23のカリキュラム・ツリーです。

1回生では、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」という演習科目をベースとしつつ、基礎ユニットの科目群である「心理学概論」、「心理学史」、「認知心理学概論（知覚・認知心理学）」、「発達心理学概論（発達心理学）」、「社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）」、「心理学実験Ⅰ」、「心理学統計法Ⅰ」、「リテラシー入門」、「総合心理学入門」、「社会の中の心理学」、そして「英語P1・2」などの授業を通じて、5つの教育目標の分野で成長していきます。

2回生からは専門科目の履修が本格的に始まります。将来の進路をイメージしながら、どの履修モデルに沿って学びを深めていくのかといったイメージをつかみ、見通しをもてるようにする必要があります。そうしてスタートする2回生では、「展開演習」をベースに各分野の学びを達成していきます。各ユニットで本格的に始まる専門科目、心理学の研究を進めるために必要な「量的研究法」「質的研究法」「心理学データ解析法Ⅰ」「心理調査法概論」、「心理学的アセスメント」や1回生から続く「心理学実験Ⅱ」が主要な科目です。

3回生からは「専門演習Ⅰ・Ⅱ」がスタートします。2回生の終わりには、自分がどのような卒業研究を行って卒業するのかについてのイメージをもって「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の選択を行う必要があります。さかのぼって考えれば2回生の一つのテーマは自分がどの専門演習を選択するのかを意識することにあると言えるでしょう。3回生では、「人間観の探求」、「現代人間論」、「専門英語（心理学）Ⅰ・Ⅱ」、各ユニットの専門科目が主要な科目となります。

4回生では「専門演習Ⅲ・Ⅳ」がツリーに描かれています。ただし2回生以上、3回生以上に配当される科目について4回生でも受講しながら専門演習が進みます。1回生から3回生までの学修の成果をふまえて、専門演習をベースにして4年間の集大成である卒業論文の制作をしていきます。

カリキュラム・ツリーで示される回生ごとの系統的な履修の様子を核として、それぞれの履修モデルとカリキュラム・マップを参照しながら、皆さんの卒業までの道筋をイメージできるようにしてください。

【4年間の学びの流れ】

科目区分／アセスメント		1年生	2年生	3年生	4年生
外国語ユニット		英語S1・2 英語P1・2	英語S3・4 英語P3・4		
教養科目		教養科目の履修			
基礎ユニット		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	
専門科目	認知・行動ユニット	各ユニット専門科目の履修開始			
	知覚・認知領域 行動・科学領域				
	発達・キャリアユニット				
	発達・支援領域 キャリア・組織領域				
アドバンスド科目	社会・文化ユニット	各ユニット専門科目の履修開始			
	社会・文化 文化・共生領域				
	英語アドバンスドユニット	2年次配当科目	2年次配当科目	専門英語（心理学）Ⅰ・Ⅱ	
	研究法アドバンスドユニット	1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	
小集団科目	プロジェクト研究ユニット	1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
	特殊講義ユニット		2年次配当科目		
	実験・実習ユニット	心理学実験Ⅰ	心理学実験Ⅱ	受講者選抜 臨床・実践演習 （心理演習）	受講者選抜 臨床・実践フィールド ワーク（心理実習）
	演習・卒業研究ユニット	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	展開演習 専門演習 クラス選択	専門演習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究 専門演習Ⅲ・Ⅳ
学びのアセスメント		学びのアセスメント 1・2	学びのアセスメント 3・4	学びのアセスメント 5・6	学びのアセスメント 7・8

カリキュラム表

●必修科目、○履修指定、○内は単位数

科目区分			1 回生配当		2 回生配当		3 回生配当		4 回生配当		修得済単位数			修得単位 合計数	要卒単位数		
			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	1 年次 終了時	2 年次 終了時	3 年次 終了時		最低取得すべき単位数		
外国語ユニット			●英語 P1 ① ●英語 S1 ① 日本語Ⅶ (文章表現 a) ① 日本語Ⅶ (読解 a) ① 日本語Ⅶ (聴解口頭 a) ①	●英語 P2 ① ●英語 S2 ① 日本語Ⅶ (文章表現 b) ① 日本語Ⅶ (読解 b) ① 日本語Ⅶ (聴解口頭 b) ①	●英語 P3 ① ●英語 S3 ① 日本語Ⅶ (アカデミック日本語 a) ① 日本語Ⅶ (キャリア日本語 a) ①	●英語 P4 ① ●英語 S4 ① 日本語Ⅶ (アカデミック日本語 b) ① 日本語Ⅶ (キャリア日本語 b) ①									① 8 単位以上 /8	124 単 位以 上	
教養科目			(1 回生) 社会と学ぶ課題解決② (1・2 回生) 日本の近現代と立命館② (1 回生以上) ジェンダーとダイバーシティ② 現代平和論② (留)日本の文化・地理・歴史② 京都学② 現代日本の政治② (留)日本の経済・経営② 科学的な見方・考え方② 近現代の科学技術② 統計学② Introduction to Global Justice② Intensive Language Workshop② 現代社会のフィールドワーク② 異文化間テーマ演習② (2 回生以上) 平和人権フィールドスタディ② (3 回生以上) 超領域リベラルアーツ②	ピア・サポート論② メディアと現代文化② 戦争の歴史と思想② 社会学入門② 美と芸術の論理② 現代の国際関係と日本② エリアスタディ入門② 宇宙科学② (留)日本の自然・科学技術② Liberal Arts Seminar② Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell② Language for Academic Communication② スポーツの歴史と発展② 特殊講義 (総合) ② (留)日本語学②	メディアと図書館② 市民と政治② 哲学と人間② 文化人類学入門② 音楽原論② 日本経済概説② 新しい日本史像② 地球科学② 数理の世界 Introduction to Humanities② Cross-cultural Encounters 2② Global Project-Based Learning② スポーツと現代社会② 仕事とキャリア②	国の行政組織② 日本国憲法② 人間性と倫理② 文学と社会② 映像と表現② 現代の世界経済② 中国の国家と社会② 生命科学 (分子と生命) ② ②情報の数理② Understanding Language② Cross-cultural Studies② Area Study I ② スポーツのサイエンス② コーオプ演習 (理論) ②	Cross-cultural Encounters 1② 災害と安全② 論理と思考② 現代の教育② 映像メディア実践入門② 現代の経営② 東アジアと朝鮮半島② 生命科学 (生物と生態系) ② 情報科学② Computers in Education② Cross-cultural Seminar② Area Study II ④ 現代人とヘルスケア② コーオプ演習 (実践) ②	学びとキャリア② 歴史観の形成② 社会思想史② 世界の言語と文化② 文芸創作論② 社会と福祉② ヨーロッパの歴史② 現代環境論② 情報技術と社会② Understanding Visual Culture② Academic Skills 1② Global Study ④ スポーツ方法実習Ⅰ① シチズンシップ・スタディーズ②	地域参加学習入門② 科学・技術と社会② 科学技術と倫理② 世界と日本の食文化② 現代社会と法② ソーシャルデザイン論② アメリカの社会と文化② 科学と技術の歴史② データサイエンス・AI基礎② Cross Border Policy Issues② Academic Skills 2② Academic Communication (Online Learning) スポーツ方法実習Ⅱ①	現代社会とボランティア② 実践データ科学② 宗教と社会② 観光学② 経済と社会② (留)日本の社会・政治② イスラーム世界の多様性② 生命科学と倫理② データエンジニアリング基礎② Playing with Playfulness② グローバル社会の体験と理解② Area Study (Online Learning) 教養ゼミナール②					/24		② 24 単位以上
基礎ユニット			◎リテラシー入門② ◎総合心理学入門② ◎心理学統計法Ⅰ ② ◎心理学概論② 社会の中の心理学②	心理学史② ◎心理学研究法② 認知心理学概論 (知覚・認知心理学) ② 発達心理学概論 (発達心理学) ② 社会心理学概論 (社会集団・家族心理学) ②	精神疾患とその治療② プログラミング入門② 臨床心理学概論②	医学総論 (人体の構造と機能及び疾病) ②	公認心理師の職責② 関係行政論②							/20	③ 20 単位以上		
専門科目	認知・行動ユニット	知覚・認知領域			認知科学② 知覚心理学② 学習・記憶心理学②	神経・生理心理学② 応用認知心理学② 思考心理学②	色彩論②								④ 専門科目から 30 単位以上		④ および ⑤を満 たした うえで 40 単 位以 上
		行動・科学領域			行動分析学 (学習・言語心理学) ② 認知行動療法論 (心理学的支援法) ②	応用行動分析学 (学習・言語心理学) ② 心理的アセスメント②	障害者・障害児心理学②										
	発達・キャリアユニット	発達・支援領域			乳幼児心理学② 児童心理学② 青年心理学② 中高年心理学②	進化心理学② 発達臨床心理学② 教育・学校心理学② 福祉心理学②	言語発達論② 学校カウンセリング論 (心理学的支援法) ②										
		キャリア・組織領域			経済と人間② 組織行動論 (産業・組織心理学) ② 国内フィールドスタディ②	組織と人間② 行動経済論② 国内フィールドスタディ④	キャリア形成論②										
	社会・文化ユニット	社会・共生領域			司法・犯罪心理学② コミュニティ心理学②	実験社会心理学②	感情・人格心理学② ナラティブ療法論 (心理学的支援法) ② 健康・医療心理学②	芸術療法論 (心理学的支援法) ② 家族療法論 (心理学的支援法) ②									
アドバンスド科目		文化・共生領域			メディア心理学②	家族と人間② 文化心理学②	人間観の探求② 政治と人間② ジェンダー心理学②	現代人間論②									
		英語アドバンスドユニット			海外フィールドスタディ②	海外フィールドスタディ④	専門英語 (心理学)Ⅰ ② 専門英語 (心理学)Ⅱ ②								⑤ 6 単位以上 /6		
		研究法アドバンスドユニット		心理学統計法Ⅱ ②	量的研究法② 心理学データ解析法Ⅰ ②	質的研究法② 心理学データ解析法Ⅱ ② 心理調査法概論②	心理学統計法特殊講義②										
		プロジェクト研究ユニット	プロジェクト研究Ⅰ ②	プロジェクト研究Ⅱ ②	プロジェクト研究Ⅲ ②	プロジェクト研究Ⅳ ②	プロジェクト研究Ⅴ ②	プロジェクト研究Ⅵ ②	プロジェクト研究Ⅶ ②	プロジェクト研究Ⅷ ②							
特殊講義ユニット			総合心理学特殊講義Ⅰ ② 総合心理学特殊講義Ⅱ ② 総合心理学特殊講義Ⅲ ②														
小集団科目	実験・実習ユニット			●心理学実験Ⅰ ①	◎心理学実験Ⅱ ①			臨床・実践演習 (心理演習) ①	臨床・実践フィールドワーク (心理実習) ①						⑥ 1 単位以上 /1		
	演習・卒業研究ユニット		◎基礎演習Ⅰ ②	◎基礎演習Ⅱ ②		◎展開演習②	◎専門演習Ⅰ ②	◎専門演習Ⅱ ②	◎専門演習Ⅲ ② ●卒業研究④	◎専門演習Ⅳ ②					⑦ 4 単位以上 /4		

総合心理学部カリキュラムマップ

「教育目標」

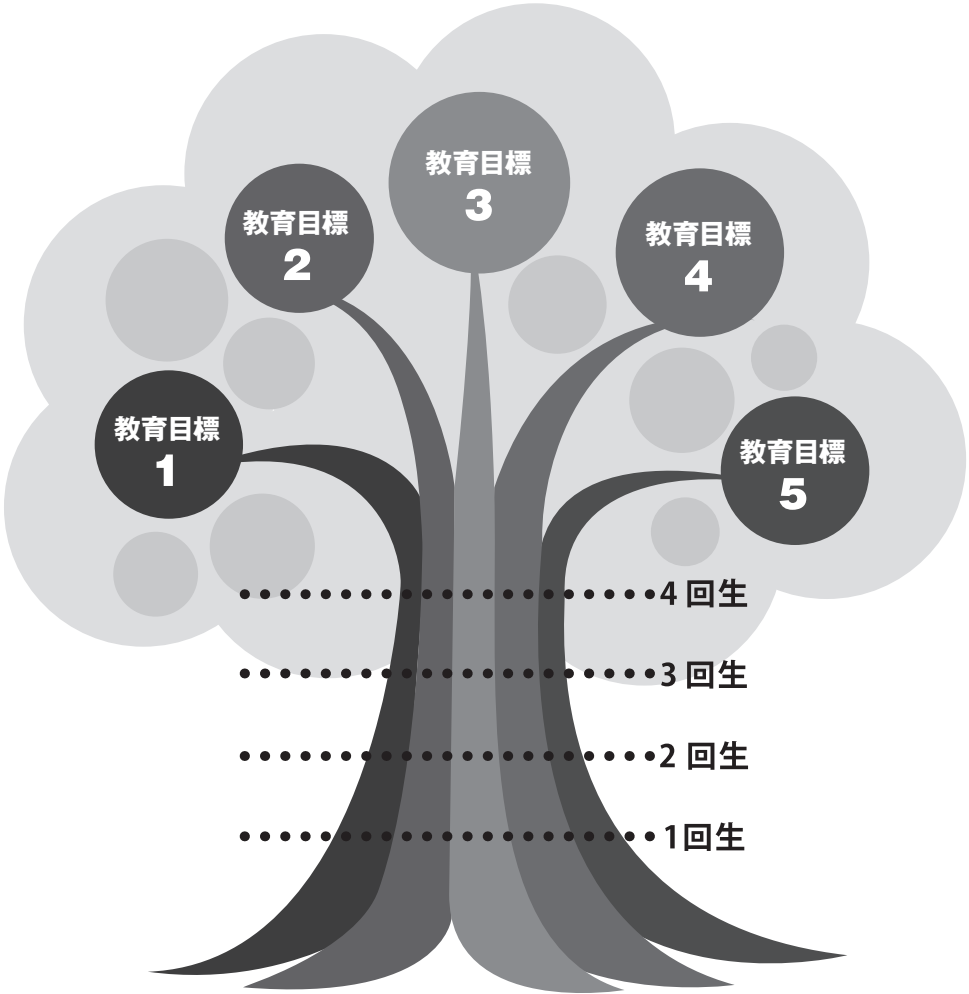
- (1) 心理学の諸分野の基礎知識に基づいて、人間の心と行動を科学的に探求し思考することができる
- (2) 幅広い教養に基づいて、心理学的知見を他の分野の知見と関係つけて、人間を総合的・多面的に理解することができる
- (3) 人間と人間関係について、心理学的知見を他の分野の知見と協働し、問題解決に貢献することができ
- (4) 日本語と外国語の基本的コミュニケーション能力をもち、情報やデータを加工し分析する基礎的能力を身に付け、自らの見解を論理的に主張することができる
- (5) 大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を身に付けている

回生	科目名	コア 科目	科目区分	必修・選択 区分	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1	リテラシー入門	■	基礎ユニット	履修指定	○		○	○	
1	心理学統計法Ⅰ	■	基礎ユニット	履修指定	○			○	
1	総合心理学入門	■	基礎ユニット	履修指定	○			○	○
1	心理学概論	■	基礎ユニット	履修指定	○				
1	心理学研究法	■	基礎ユニット	履修指定	○			○	
1	社会の中の心理学	■	基礎ユニット	選択				○	○
1	心理学史		基礎ユニット	選択		○			
1	英語 P1	■	外国語ユニット	必修	○	○		○	
1	英語 S1		外国語ユニット	必修	○	○		○	
1	英語 P2	■	外国語ユニット	必修			○	○	
1	英語 S2		外国語ユニット	必修		○		○	
1	認知心理学概論 (知覚・認知心理学)		基礎ユニット	選択	○				
1	発達心理学概論 (発達心理学)		基礎ユニット	選択	○				
1	社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)		基礎ユニット	選択	○				
1	心理学統計法Ⅱ	■	研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
1	プロジェクト研究Ⅰ		プロジェクト研究ユニット	選択	○	○			
1	プロジェクト研究Ⅱ		プロジェクト研究ユニット	選択	○	○			
1	心理学実験Ⅰ	■	実験・実習ユニット	必修	○	○		○	
1	基礎演習Ⅰ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定	○				
1	基礎演習Ⅱ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定	○				
2	プログラミング入門		基礎ユニット	選択		○		○	
2	臨床心理学概論		基礎ユニット	選択	○	○			
2	精神疾患とその治療		基礎ユニット	選択	○	○			
2	医学総論 (人体の構造と機能及び疾病)		基礎ユニット	選択		○	○		
2	英語 P3	■	外国語ユニット	必修			○	○	
2	英語 S3		外国語ユニット	必修		○		○	
2	英語 P4	■	外国語ユニット	必修			○	○	
2	英語 S4		外国語ユニット	必修		○		○	
2	神経・生理心理学		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
2	認知科学		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
2	知覚心理学		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
2	学習・記憶心理学		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
2	応用認知心理学		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
2	思考心理学		認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択	○				
2	行動分析学 (学習・言語心理学)		認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択	○				
2	応用行動分析学 (学習・言語心理学)		認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択	○				
2	心理的アセスメント	■	認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択			○	○	
2	認知行動療法論 (心理学的支援法)		認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択		○	○		
2	乳幼児心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択					
2	青年心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	発達臨床心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	福祉心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	児童心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	中高年心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	進化心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
2	教育・学校心理学		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択		○			
2	経済と人間		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択		○			
2	組織と人間		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択		○			
2	国内フィールドスタディ		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択			○		○
2	組織行動論 (産業・組織心理学)		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択	○				
2	行動経済論		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択		○			
2	司法・犯罪心理学		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○				
2	実験社会心理学		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○				
2	コミュニティ心理学		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○				
2	文化心理学		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○	○			
2	メディア心理学		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○				
2	家族と人間		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択		○			
2	海外フィールドスタディ		英語アドバンスドユニット	選択			○	○	○
2	量的研究方法		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
2	質的研究法		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
2	心理調査法概論		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
2	心理学データ解析法Ⅰ		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
2	心理学データ解析法Ⅱ		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
2	プロジェクト研究Ⅲ		プロジェクト研究ユニット	選択	○			○	
2	プロジェクト研究Ⅳ		プロジェクト研究ユニット	選択	○	○			
2	総合心理学特殊講義Ⅰ		特殊講義ユニット	選択	○	○			
2	総合心理学特殊講義Ⅱ		特殊講義ユニット	選択	○	○			
2	総合心理学特殊講義Ⅲ		特殊講義ユニット	選択	○	○			
2	心理学実験Ⅱ	■	実験・実習ユニット	履修指定	○			○	
2	展開演習	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定				○	
3	公認心理師の職責		基礎ユニット	履修指定			○	○	
3	関係行政論		基礎ユニット	選択			○	○	
3	色彩論		認知・行動ユニット (知覚・認知領域)	選択	○				
3	障害者・障害児心理学		認知・行動ユニット (行動・科学領域)	選択	○				
3	言語発達論		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
3	学校カウンセリング論 (心理学的支援法)		発達・キャリアユニット (発達・支援領域)	選択	○				
3	キャリア形成論		発達・キャリアユニット (キャリア・組織領域)	選択	○			○	
3	芸術療法論 (心理学的支援法)		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○			○	
3	家族療法論 (心理学的支援法)		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○			○	
3	感情・人格心理学		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○			○	
3	ナラティブ療法論 (心理学的支援法)		社会・文化ユニット (社会・共生領域)	選択	○			○	
3	健康・医療心理学		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○			○	
3	政治と人間		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○			○	
3	人間観の探求		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○			○	
3	現代人間論		社会・文化ユニット (文化・共生領域)	選択	○			○	○
3	ジェンダー心理学		英語アドバンスドユニット	選択	○			○	
3	専門英語 (心理学)Ⅰ		英語アドバンスドユニット	選択	○			○	
3	専門英語 (心理学)Ⅱ		英語アドバンスドユニット	選択	○			○	
3	心理学統計法特殊講義		研究法アドバンスドユニット	選択	○			○	
3	プロジェクト研究Ⅴ		プロジェクト研究ユニット	選択	○			○	
3	プロジェクト研究Ⅵ		プロジェクト研究ユニット	選択	○			○	
3	臨床・実践演習 (心理演習)		実験・実習ユニット	登録制限				○	○
3	専門演習Ⅰ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定				○	
3	専門演習Ⅱ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定				○	
4	プロジェクト研究Ⅶ		プロジェクト研究ユニット	履修指定				○	
4	プロジェクト研究Ⅷ		プロジェクト研究ユニット	選択	○			○	
4	臨床・実践フィールドワーク (心理実習)		実験・実習ユニット	登録制限				○	○
4	専門演習Ⅲ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定	○			○	
4	専門演習Ⅳ	■	演習・卒業研究ユニット	履修指定	○			○	
4	卒業研究	■	演習・卒業研究ユニット	必修	○	○		○	○

カリキュラム・ツリー

回生	学期	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3	教育目標 4	教育目標 5
		心理学の諸分野の基礎知識に基づいて、人間の心と行動を科学的に探究し思考することができる	幅広い教養に基づいて、心理学的知見を他の分野の知見と関係づけて、人間を総合的・多面的に理解することができる	人間と人間関係について多面的な関心をもち、個性と多様性を尊重しつつ他者と協働し、問題解決に貢献することができる	日本語と外国語の基本的コミュニケーション能力をもち、情報やデータを加工し分析する基礎的能力を身に付け、自らの見解を論理的に主張することができる	大学で修得した成果に基づいて、職業人や市民として社会に貢献しようとする倫理観と、学び続けようとする意欲を身に付けている
4	通年	卒業研究				
4	秋			プロジェクト研究Ⅷ	専門演習Ⅳ	
4	春			プロジェクト研究Ⅶ	専門演習Ⅲ	
3	秋		人間観の探求	関係行政論		
3	秋		専門科目	プロジェクト研究Ⅵ	専門英語Ⅱ	
3	秋		アドバンスド科目	専門科目	専門演習Ⅱ	
3	春		専門科目	プロジェクト研究Ⅴ	専門英語Ⅰ	
3	春		アドバンスド科目	専門科目	専門演習Ⅰ	公認心理師の職責
2	通年					国内フィールドスタディ
2	秋				心理学データ解析法Ⅱ	
2	秋		医学総論（人体の構造と機能及び疾病）	プロジェクト研究Ⅳ	心理的アセスメント	
2	秋	専門科目	アドバンスド科目	展開演習	英語 P4	海外フィールドスタディ
2	春				心理学データ解析法Ⅰ	
2	春				プログラミング入門	
2	春	臨床心理学概論	精神疾患とその治療		心理学実験Ⅱ	
2	春	専門科目	アドバンスド科目	プロジェクト研究Ⅲ	英語 P3	
1	秋				心理学研究法	
1	秋	認知心理学概論（知覚・認知心理学）			心理学実験Ⅰ	
1	秋	発達心理学概論（発達心理学）		プロジェクト研究Ⅱ	心理学統計法Ⅱ	
1	秋	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	心理学史	基礎演習Ⅱ	英語 P2	
1	春			プロジェクト研究Ⅰ	リテラシー入門	
1	春	心理学概論		基礎演習Ⅰ	心理学統計法Ⅰ	社会の中の心理学
					英語 P1	総合心理学入門

網掛けはコア科目
開講期間（春・秋）は変更となる場合があります



Ⅱ - 4. 教養科目

立命館憲章および学生
育成目標と教養教育

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています（立命館憲章より）。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

（以上、立命館大学の学生育成目標より）

教養教育は、みなさん一人ひとりの大学生活を通じた成長の基盤形成としての役割を発揮します。各学部では専門教育によって知識を深めていきます。教養教育は幅広い分野から知の総体を俯瞰し、視野を広げていくことを目指しています。人生を生きてゆく上での羅針盤ともなるような知性と知恵の修得と価値観の形成が教養教育の目的です。社会の課題を自らのこととして把握し、専門を相対化する視点を身につけ、他者と協働しながら生きていくことのできる地球市民へと成長するために教養教育での学びを深めましょう。

1. 本学の教養教育の理念および目標

本学の教養教育は、総合大学の特長を活かして、専門教育と往還しながら自らの専門性を相対化し、物事を総合的に捉える視野を身につけ、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方を涵養し、主体的かつ自律的な思考や行動、ならびに他者との対話や協働ができる力の育成を目指しています。

この理念のもと、3つの目標を掲げています。

〈教養教育の目標〉

【目標Ⅰ】 知識・理解	学部固有の専門教育とは異なる知的体系や方法論による学習によって、自らの専門性を相対化し考察する能力の習得を目指す。
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	豊かな教養と深い洞察力の獲得によって、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方の涵養を目指す。
【目標Ⅲ】 態度・行動	他者と実践をともにする中で多様な価値観を踏まえて主体的に学習する姿勢を身につけ、現代社会を切り拓く力の育成を目指す。

2. 教養教育の到達目標とカリキュラム・マップについて

1. で掲げた3つの目標に対応する、より具体的な到達目標を定めています。各科目がどの到達目標と合致しているかを示したのがカリキュラム・マップです。バランスよく履修できるようカリキュラム・マップを活用してください（教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照）。

〈教養教育の目標および到達目標〉

目標	到達目標
【目標Ⅰ】 知識・理解	【Ⅰ - a】 知識 幅広い知識を習得し、自らの専門や日常生活に活用できる
	【Ⅰ - b】 科学的考察力 科学的方法論に基づき、事象を考えることができる
	【Ⅰ - c】 総合的解釈力 物事を総合的に考えることができる

立命館憲章および学生
 生育成目標と教養教育
 (続き)

【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	【Ⅱ - d】 洞察力 論理的・批判的に事象を洞察することができる
	【Ⅱ - e】 指針の確立 倫理観・正義感を持ち、多様な選択肢から適切な意思決定を行うことができる
	【Ⅱ - f】 創造性 既成の概念に拘らず、創造的に考えることができる
【目標Ⅲ】 態度・行動	【Ⅲ - g】 多様性・国際性 多様な価値観が異なる意味、対立する意味を考えることができる
	【Ⅲ - h】 自己表現力 問題を発見し、その解決に向けて自分の考えを他者へ伝えることができる
	【Ⅲ - i】 共創する力 他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取ることができる

〈総合心理学部〉

科目	群	分野、科目区分など	卒業に必要な 単位数
教養科目	立命館科目	—	24 単位以上
	教養基盤科目 (A 群)	第1分野 思想と人間	
		第2分野 現代と文化	
		第3分野 芸術と創造	
		第4分野 社会・経済と統治	
		第5分野 世界の史的構成	
		第6分野 自然・科学と人類	
		第7分野 数理と情報	
	国際教養科目 (B 群)	国際教養科目区分	
		異文化交流科目区分	
		海外留学科目区分	
	社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)	キャリア教育科目	
		サービスラーニング科目	
	スポーツ・健康科目 (D 群)	—	
	学際総合科目 (E 群)	—	

各科目群の概要

(1) 立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第3セメスターまで）で1科目以上履修することが望ましいです。

13の科目から構成される立命館科目は、次の3つの特徴をもって構成されています。

第1に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学とは何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第2に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第3に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々のいのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

各科目群の概要
(続き)

(2) 教養基盤科目 (A 群)

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端の知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

教養基盤科目 (A 群) は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の7つの分野から成り立っています。

第1分野 思想と人間	哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけではなく、21世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。
第2分野 現代と文化	人間を政治、経済、社会、文化の4側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。
第3分野 芸術と創造	人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。
第4分野 社会・経済と統治	この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいつそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を解明します。
第5分野 世界の史的構成	現代社会を理解する際の基礎的方法のひとつは、世界を歴史的に把握することです。この分野は、社会科学的な発想を基調としつつ人文科学の見方も包含して、社会を歴史的な観点から考察します。この分野では、分野全体の基礎概念等を説明する科目によって、歴史を見る際の見方と、世界を地域の観点から眺める際の見方を学習します。そして、それを基に世界を大きく5地域（日本、日本を除くアジア、ヨーロッパ、アメリカ、そしてイスラーム圏）に区分して、それぞれの主要課題を考察します。さらに、こうした理解に加えて本学に入学した学生諸君が身近な視点から歴史的な存在としての自己の認識を深めることができるような科目を配置しています。
第6分野 自然・科学と人類	この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。
第7分野 数理と情報	この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理的世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

各科目群の概要 (続き)

(3) 国際教養科目 (B 群)

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通じた幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目 (B 群) は、「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

国際教養科目区分	人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた 20～35 人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的な背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。
異文化交流科目区分	文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。
海外留学科目区分	主に、半年から 1 年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の 4 技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

(4) 社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)

実社会（企業・公益団体・地域社会等）との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士との対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

キャリア教育科目	キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関わるか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関わりの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。 1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望まれます。
サービ斯拉ーニング科目	主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

(5) スポーツ・健康科目 (D 群)

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに大きな役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

各科目群の概要 (続き)

教養科目における各 科目の位置付けにつ いて

データサイエンス +R プログラムについて

(6) 学際総合科目 (E 群)

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」、3回生以上を対象とする「超領域リベラルアーツ」から成り立っています。

配当回生に基づき、教養科目を「導入」「形成」「先端」に位置付けています(教養科目一覧およびカリキュラム・マップを参照)。履修計画を立てる際に参考にしてください。

導入	低回生に受講を強く推奨する科目です。配当回生は、1回生のみ、もしくは、1・2回生とし、3回生以上の履修は認めませんので、注意してください。具体的には以下の科目です。 ■ 1回生のみ:「社会と学ぶ課題解決」 ■ 1・2回生:「日本の近現代と立命館」「ピア・サポート論」「メディアと図書館」「学びとキャリア」「国の行政組織」「Cross-cultural Encounters 1」「地域参加学習入門」「現代社会とボランティア」
形成	教養教育の多様性を実現する科目です。「導入」「先端」以外の科目は全て「形成」です。配当回生は1回生以上、もしくは、2回生以上です(一部例外あり)。
先端	学部での専門教育を経た3回生以上を対象とする科目です。 具体的には、人類が直面する課題に対し、学問分野の枠にとらわれず、分野の壁を越えた先進的・学際的・学融合的アプローチを行う科目「超領域リベラルアーツ」のみです。

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス +R プログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

(1) データサイエンス +R プログラム (基礎)

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1回生以上	2単位

(2) データサイエンス +R プログラム (応用基礎)

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI基礎	1回生以上	2単位
データエンジニアリング基礎	1回生以上	2単位

※上記2科目の単位取得により応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

教養科目一覧および カリキュラム・マップ

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当 回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ(教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特に あてはまるものに○、あてはまるものに○)								
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○	○			○		
		ピア・サポート論	2	講義	1・2回生	導入			○		○		○	○	○
		ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○	○	○		○
		メディアと現代文化	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○	○	
		市民と政治	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○				
		日本国憲法	2	講義	1回生以上	形成	○			○	○				
		災害と安全	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○		
		歴史観の形成	2	講義	1回生以上	形成		○	○	○	○		○	○	
		科学・技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○	○	
		実践データ科学	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○				○	○
		現代平和論	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		○		○
		戦争の歴史と思想	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○	○	
		平和人権フィールドスタディ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	○	○		○		○
教養基盤科目(A群)	第1分野 思想と人間	哲学と人間	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○		○	○	○	
		人間性と倫理	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		○		
		論理と思考	2	講義	1回生以上	形成		○	○		○			○	
		社会思想史	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○		
		科学技術と倫理	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○		○	○	
		宗教と社会	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			○		○
		(留)日本の文化・地理・歴史	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			○		
	第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	講義	1・2回生	導入	○		○	○			○		○
		社会学入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○	○	○
		文化人類学入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			○		
		文学と社会	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○		○		○	
		現代の教育	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○				
		世界の言語と文化	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			○		
		世界と日本の食文化	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○		
		観光学	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			○	○	○
		京都学	2	講義	1回生以上	形成	○		○				○		
		(留)日本語学	2	講義	2回生以上	形成	○	○							
	第3分野 芸術と創造	美と芸術の論理	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			○		
		音楽原論	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○					
		映像と表現	2	講義	1回生以上	形成	○					○			
		映像メディア実践入門	2	講義	1回生以上	形成						○		○	○
		文芸創作論	2	講義	1回生以上	形成	○					○	○	○	○
	第4分野 社会・経済と統治	国の行政組織	2	講義	1・2回生	導入	○		○						○
		現代社会と法	2	講義	1回生以上	形成	○		○		○				
		経済と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○	○	
		現代日本の政治	2	講義	1回生以上	形成	○			○	○				
		現代の国際関係と日本	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			○		○
		日本経済概説	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○	○	
		現代の世界経済	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	○	○	○	○	
		現代の経営	2	講義	1回生以上	形成		○	○	○					
		社会と福祉	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○		○
		ソーシャルデザイン論	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○		○
		(留)日本の社会・政治	2	講義	1回生以上	形成	○		○		○		○		○
		(留)日本の経済・経営	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	○	○	

教養科目一覧および
カリキュラム・マップ
(続き)

群	分野・科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当 回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ(教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎)								
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i
国際教養科目(B群)	第5分野 世界の史的構成	エリアスタディ入門	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	◎	○			○		
		新しい日本史像	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○	○			○	○	
		中国の国家と社会	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○			◎		
		東アジアと朝鮮半島	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		ヨーロッパの歴史	2	講義	1 回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		アメリカの社会と文化	2	講義	1 回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		イスラーム世界の多様性	2	講義	1 回生以上	形成	○		○	○			◎		○
	第6分野 自然・科学と人類	科学的な見方・考え方	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	○		
		宇宙科学	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎				○			
		地球科学	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎				○			
		生命科学(分子と生命)	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○							
		生命科学(生物と生態系)	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○						
		現代環境論	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○				
		科学と技術の歴史	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○	○			○		
		生命科学と倫理	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○				○		
		近現代の科学技術	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎		○	◎	○	○		
		(留)日本の自然・科学技術	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎			○	○	◎		
	第7分野 数理と情報	数理の世界	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報の数理	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報科学	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○			
		情報技術と社会	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	○		○
		統計学	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	◎	◎	○	○		○	
		データサイエンス・AI基礎	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
		データエンジニアリング基礎	2	講義	1 回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
	国際教養科目(B群)	Liberal Arts Seminar	2	演習	1 回生以上	形成			○				◎	○	
		Introduction to Humanities	2	講義	1 回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Understanding Language	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Computers in Education	2	講義	1 回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Understanding Visual Culture	2	講義	1 回生以上	形成	◎		○				○		
		Cross Border Policy Issues	2	演習	1 回生以上	形成	○		○		○	○	◎	◎	◎
		Playing with Playfulness	2	講義	1 回生以上	形成	○		○			○	◎	○	◎
		Introduction to Global Justice	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○		○		◎		○
		Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	講義	1 回生以上	形成	○	◎	○		○	○	◎		◎
		Cross-cultural Encounters 1	2	演習	1・2 回生	導入			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Encounters 2	2	演習	1 回生以上	形成			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Studies	2	講義	1 回生以上	形成	○					◎	◎		◎
		Cross-cultural Seminar	2	演習	1 回生以上	形成	○					◎	◎		◎
		Academic Skills 1	2	演習	1 回生以上	形成						○	◎	○	
		Academic Skills 2	2	演習	1 回生以上	形成						○	◎	○	
	海外留学科目区分	グローバル社会の体験と理解	2	実習・講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)							◎		
		Intensive Language Workshop	2	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○						◎	○	
		Language for Academic Communication	2	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○						◎	○	○
		Global Project-Based Learning	2	講義・実習	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)		○	○	○	○		◎	○	○
		Area Study I	2	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○		○				◎		
		Area Study II	4	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○		○	○		○	◎		
		Global Study	4	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○	○	○	○	○	○	◎		
		Academic Communication (Online Learning)	2	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○						◎	○	○
		Area Study (Online Learning)	2	講義	1 回生以上	形成(海外派遣プログラム単位授与科目)	○		○			○	◎		

教養科目一覧および
カリキュラム・マップ
(続き)

群	分野・科目区分等	科目名	単位数	授業方法	担当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ(教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎)								
							Ⅰ・a	Ⅰ・b	Ⅰ・c	Ⅱ・d	Ⅱ・e	Ⅱ・f	Ⅲ・g	Ⅲ・h	Ⅲ・i
社会で学ぶ自己形成科目(C群)	キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	1回生のみ	導入				◎		○	○	◎	◎
		学びとキャリア	2	講義	1・2回生	導入			◎	○			◎	◎	○
		仕事とキャリア	2	講義	2回生以上	形成			◎	○			◎	◎	○
		コオプ演習(理論)	2	講義	2回生以上	形成			◎	○			○	◎	◎
		コオプ演習(実践)	2	演習	2回生以上	形成				◎		○	○	◎	◎
	サレイン科目	地域参加学習入門	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○		◎	○	◎	○	○
		現代社会とボランティア	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○		◎	○	◎	◎	○
		現代社会のフィールドワーク	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		◎	○	○	◎	◎
		シチズンシップ・スタディーズ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	○	◎	○	◎	○	◎
		スポーツの歴史と発展	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
スポーツ・健康科目(D群)	スポーツ・健康科目	スポーツと現代社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○			○		
		スポーツのサイエンス	2	講義	1回生以上	形成	○	◎							
		現代人とヘルスケア	2	講義	1回生以上	形成	◎	○							
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎
		教養ゼミナール	2	演習	1回生以上	形成			○	○	○	○	◎	◎	◎
		異文化間テーマ演習	2	演習	1回生以上	形成				○			◎	○	
学際総合科目(E群)	学際総合科目	超領域リベラルアーツ	2	講義	3回生以上	先端	○	◎	◎	◎		○	○	○	○

(注意事項)

科目名に「(留)」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で正規留学生・短期留学生のみが受講できます。

国際教養科目(B群)は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関わり度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけていることが必要です。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。

〈英語開講の授業における言語レベル〉

Stage	TOEIC® LISTENING AND READING テスト	TOEFL ITP® テスト	TOEFL iBT® テスト	IELTS
Stage1	380 未満	400 未満	32 未満	4.5 未満
Stage2	380～580	400～480	32～55	4.5～5.0
Stage3	580～630	480～530	55～71	5.0 以上
Stage4	630 以上	530 以上	71 以上	5.5 以上

* TOEIC® および TOEFL® は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。
・海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。

・右の QR コードから、アクセスできます。



・manaba+R からは、
「総合心理学部生のページ」→「トップページ」→「履修・受講登録」→「教養科目の履修」をクリック。

II - 5. 外国語ユニット

総合心理学部における英語学修の目標

現在急速にグローバル化が進んでいる心理学分野の中であって、総合心理学部では心理学の素養をもって人間を総合的に考え、国際的な観点を持ち、海外の諸機関との共同プロジェクトを実行する能力を持った人材の育成を目標としています。それに即して、総合心理学部における英語教育においては、英語でリサーチプロジェクトを遂行し、人間の心と行動の理解に関して英語で自らの考えを表現し、将来、関連分野で国際的に活躍できる人材を養成することを目標とします。

この目標を達成するために、総合心理学部の英語教育では情報発信型プログラム（詳しくは下記を参照）を採用します。当該プログラムを実施することにより、単なる英語学習に留まらず、プロジェクト（投企）の精神を涵養し、学生の学ぶ力や情報を発信する力を活性化していきます。

英語カリキュラムについて

総合心理学部における英語カリキュラムは下記の表の通りです。Pはプロジェクト英語、Sはスキル・ワークショップの授業です。外国語科目は必修科目ですので、当該年度に単位を修得できなかった場合には、次年度に再履修クラスを履修し、単位を修得する必要があります。

科目名	単位数	配当年次
英語 P1	1	1 回生
英語 P2	1	1 回生
英語 P3	1	2 回生
英語 P4	1	2 回生
英語 S1	1	1 回生
英語 S2	1	1 回生
英語 S3	1	2 回生
英語 S4	1	2 回生

プロジェクト発信型英語プログラムについて

プロジェクト発信型英語プログラムは、学生が心理学の専門領域の先端的研究プロジェクトを敢行し、その成果を英語で発信する能力を身に付けることを最終目的としています。プロジェクト発信型英語プログラムは、「1. プロジェクト英語」、「2. スキル・ワークショップ」の2つのモジュールで構成されます。

1. プロジェクト英語

プロジェクト英語の授業は、あらかじめ一定の教材が与えられているような従来型の「知識伝授型」の授業ではありません。当該授業では、各学生が日常生活やクラブ活動、大学の授業などの中から関心あるテーマを選んでリサーチプロジェクトを実施し、それを通して自分の考えを探求し、その成果を英語で発信します。

また、プロジェクト英語では、プロジェクトに並行して、Professional Skills (Research, Presentation, Discussion, Debating, Negotiation) の仕方と表現を学びます。特に日常生活等のコンテンツを中心に学習して Basic Professional Skills, Intermediate Professional Skills の修得を目指します。

2. スキル・ワークショップ

スキル・ワークショップでは、プロジェクトを発信するために必要な English Skills (Listening, Speaking, Reading, Writing) と English Competence (Syntax, Pronunciation, Vocabulary/Expression, Meaning) を徹底的に訓練し、総合的に学びます。スキル・ワークショップの授業も、プロジェクト英語と同様に受身型ではなく、日本や世界の文化、歴史、哲学など、学生が関心を持つテーマを中心にインタラクティブな活動の場とします。

1 セメスターの間に Listening, Speaking, Reading, Writing のうちの1つだけを学習するというやり方ではなく、全てのスキルを総合的に学習できるような仕組みで授業を実施します。1 回生時には Sound-focused course として Listening と Speaking を、2 回生時には Letter-focused course として Reading と Writing を中心とした授業を展開しますが、例えば Sound-focused course の中でも Reading と Writing の要素も取り入れることで、バランスの良い学

プロジェクト発信型 英語プログラムにつ いて (続き)

外国人留学生の履修 について

びとなるよう構成します。また、文法や語彙・表現等も当該授業の中に盛り込み、実際のコミュニケーションのインタラクティブな活動を通して、活きたコンテキストの中で英語が修得できる仕組みになっています。

3. プロジェクト英語とスキル・ワークショップの連携

プロジェクト英語とスキル・ワークショップは密接に連携します。スキル・ワークショップではリサーチプロジェクトの成果の発信に必要な英語運用能力を養成します。一方、プロジェクト英語におけるリサーチやプレゼンテーションは、スキル・ワークショップで学んだ内容を実際に活かす恰好の機会となります。プロジェクト英語とスキル・ワークショップの2つを履修することによって、英語を理解し、表現する能力を向上させることができます。

4. 英語団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、英語団体受験を実施しています。

総合心理学部の1・2回生は、全員受験しなければなりません。適切な理由なく受験しなかった場合は、そのセメスターの英語必修科目（「英語P」「英語S」）の総得点より減点されます。

※実施日程、試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ

(manaba+Rの「総合心理学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

【日本語科目について】

外国人留学生のみなさんが履修する外国語科目は、人間の心と行動の理解に関して英語で自らの考えを表現し、将来、関連分野で国際的に活躍できる力を養うために、前ページの英語8科目を必修科目とします。

加えて、総合心理学部では、日本語を母語としない外国人留学生のみなさんが大学での学習に必要とされる高い日本語力を修得することができるように、外国語ユニットの区分に、日本語を学ぶ科目を用意しています。日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語力を身に付けるために、1年次配当科目の「(留)日本語Ⅶ」の各6科目は必ず履修してください。

さらに日本語の運用能力を高めたい場合は、2年次配当の「(留)日本語Ⅷ」の各4科目も履修してください。

【クラス編成について】

新入生は、1回生で履修する日本語科目（「(留)日本語Ⅶ」の6科目）がクラス指定されます。

【再履修について】

「(留)日本語Ⅶ」各6科目の単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修してください。「(留)日本語Ⅶ」を履修した後に「(留)日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2回生以降、1回生配当科目を再履修しながら2回生配当科目を履修することは認められます。

【単位修得要件について】

日本語科目では、授業回数の3分の2以上の出席が単位修得の最低要件として定められています。

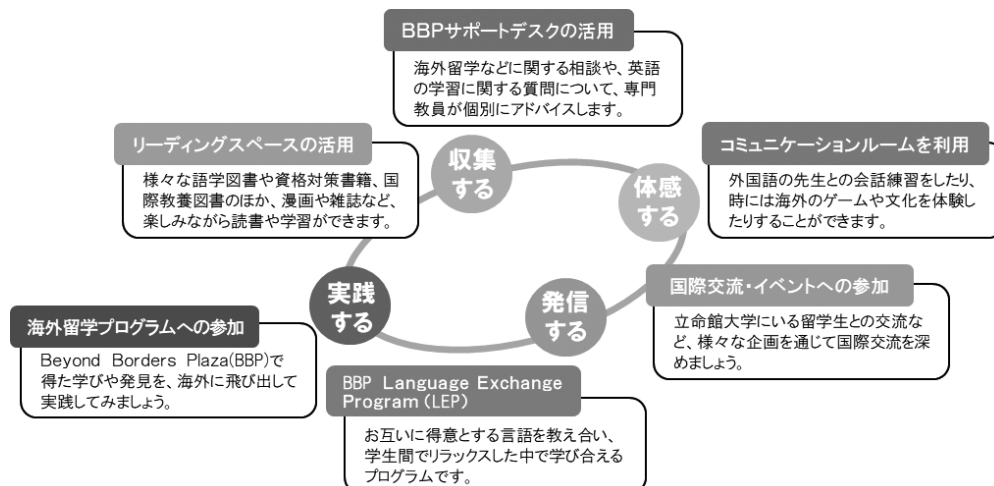
配当回生	科目名	単位数	授業開講期間
1 回生	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	1	秋セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	1	秋セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1	秋セメスター
2 回生以上	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	1	春セメスター※
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	1	秋セメスター※
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	1	春セメスター
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	1	秋セメスター

※隔年開講となる場合があります。

Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBP は、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々な Border を超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBP では、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEB サイト】

manaba+R の「総合心理学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック

<http://www.ritsumeai.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

Beyond Borders Plaza (A 棟 1 階 AN 事務室内)
Room・iCommons・AN4 階 SALL

【QR コード】



II - 6. 基礎ユニット

総合心理学部では、心理学を学ぶために必要な科目を基礎ユニットとして位置づけています。

基礎ユニット科目は、専門科目の学修に必要であることはもちろん、卒業後の職業生活や社会生活においても活用できる専門的・汎用的技能を修得することを目的としています。具体的には、日本語表現などのコミュニケーション・スキル、統計などの分析スキル、ますます膨大化する電子情報の収集と分析スキル、知識や情報を複眼的・論理的に分析して表現できる論理的思考力、問題を発見し解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる問題解決力などを養成するための科目です。

科目名	単位数	配当年次
リテラシー入門	2	1 回生
社会の中の心理学	2	1 回生以上
プログラミング入門	2	2 回生以上
心理学概論	2	1 回生
総合心理学入門	2	1 回生
心理学史	2	1 回生以上
心理学研究法	2	1 回生
心理学統計法 I	2	1 回生
認知心理学概論 (知覚・認知心理学)	2	1 回生以上
発達心理学概論 (発達心理学)	2	1 回生以上
社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)	2	1 回生以上
精神疾患とその治療	2	2 回生以上
医学総論 (人体の構造と機能及び疾病)	2	2 回生以上
臨床心理学概論	2	2 回生以上
公認心理師の職責	2	3 回生以上
関係行政論	2	3 回生以上

II - 7. 専門科目

総合心理学部では、心理学を総合的・系統的に学ぶために、心理学の専門教育の分野を「認知・行動ユニット」「発達・キャリアユニット」「社会・文化ユニット」の3ユニットに区分しています。それぞれのユニットの特徴と科目については、以下を参照してください。

1. 認知・行動ユニット

本ユニットは、「知覚・認知領域」「行動・科学領域」から構成されます。行動に多様性をもたらす適応の過程に関心を持ちながら、主に実験的方法を用いて心のはたらきと行動の仕組みを探究し、人間理解を深めることを目指します。「知覚心理学」、「認知科学」などの科目では、人間がどのように環境を認識し、情報を記憶して判断を行ったり思考したりするのかについて、基礎と応用の両面から学びます。「学習・記憶心理学」、「行動分析学 (学習・言語心理学)」などの科目では、認識や行動の基盤である生物学的な背景を踏まえた、動機の形成や学習の過程について学びます。「色彩論」、「応用行動分析学 (学習・言語心理学)」、「認知行動療法論 (心理学的支援法)」では、心理学的諸問題に対処するために環境を適切にデザインし、実践的に介入する方法について学びます。

2. 発達・キャリアユニット

本ユニットは「発達・支援領域」「キャリア・組織領域」から構成されます。人間の発達とその規定要因について、生物学的次元から社会・文化的次元にわたる様々な知識を獲得し、発達のメカニズムを包括的に理解することを目指します。「乳幼児心理学」、「児童心理学」、「青年心理学」、「中高年心理学」などでは、生涯にわたる発達の多次元性、可塑性、発達経路の多様性、獲得と喪失をめぐる問題などについて学びます。「教育・学校心理学」、「学校カウンセリング論 (心理学的支援法)」、「発達臨床心理学」などでは、学校現場を中心としつつ、家庭や地域との連携の中で、教育実践ならびに心理臨床的発達支援に向けた対象理解のアプローチや具体的支援技術を修得し、親子、家族関係の理解、子育て支援、学習支援、キャリア形成などに必要な基本的な視点について学びます。

3. 社会・文化ユニット

本ユニットは「社会・共生領域」「文化・共生領域」から構成されます。自己と他者の対人関係、身近な地域やグローバル化する社会において発生する問題や紛争とその解決について、心のはたらきと行動の仕組みを探究する立場から理解することを目指します。「実験社会心理学」、「感情・人格心理学」などの科目では、社会の中の人間行動を分析する基本的な視点を学びます。「メディア心理学」、「司法・犯罪心理学」、「コミュニティ心理学」、「文化

心理学」などの科目では、複雑化する社会における現代の問題を心理学の立場から解明し、視点の対立・利害の対立から生じる紛争や対立を共生へと転換するような研究について学びます。「健康・医療心理学」、「芸術療法論（心理学的支援法）」などの科目では、心理学的諸問題を社会との関係から考える視点や社会的な介入方法の提案について学びます。

II - 8. 英語アドバンスユニット

「専門英語（心理学） I」「専門英語（心理学） II」

1. 専門英語（心理学）の目的

「専門英語（心理学）I」および「専門英語（心理学）II」は、様々な心理学分野の、英語で書かれた重要な学術的文献（論文や書籍など）を数多く読み、人間の心と行動の理解に関する古典的～最新の研究成果に触れることで心理学の専門的な内容の理解や知識の獲得を目指します。また、読んだ学術的文献を要約し、その内容をプレゼンテーションすることを通して、論理的な思考力の向上や、人にもものを分かりやすく伝える力を伸ばして行きます。大学院へ進学を考えている人は必ず履修するように勧めます。

科目名	単位数	配当年次
専門英語（心理学）I	2	3回生以上
専門英語（心理学）II	2	3回生以上

2. 専門英語（心理学）の履修条件

「専門英語（心理学）I」および「専門英語（心理学）II」では、「英語 P1～P4」で学ぶアカデミックスキルを駆使して学術的文献の内容を理解したり、プレゼンテーションを行ったりする必要があります。したがって、「専門英語（心理学）I・II」の履修は3回生以上で、また「英語 P1～P4」の単位を修得していることが望ましいです。

II - 9. 研究法アドバンスユニット

研究法アドバンスユニットは、以下の科目で構成され、心理学の基礎スキルである統計法や各研究法を系統的に、さらに踏み込んで学ぶことができるようにします。

科目名	単位数	配当年次
量的研究法	2	2回生以上
質的研究法	2	2回生以上
心理学統計法 II	2	1回生以上
心理学データ解析法 I	2	2回生以上
心理学データ解析法 II	2	2回生以上
心理調査法概論	2	2回生以上
心理学統計法特殊講義	2	3回生以上

II - 10. 実験・実習ユニット

実習科目は、講義科目あるいは演習などの小集団科目とともに総合心理学部の重要な科目です。受講生は実習科目に参加することで、心理学と関連する様々なテーマの一端に触れることができます。実習を通して得られたデータを整理し分析する経験は、心理学や隣接領域で行われている高度なデータ分析の基礎になる技能の獲得につながります。また、実習科目ではレポート作成が求められます。レポート作成を積み重ねることは、卒業論文作成のための基礎を形成することになるでしょう。

1回生秋学期には「心理学実験 I」を、2回生春学期には「心理学実験 II」を受講します。「心理学実験 I」は必修科目であり、「心理学実験 II」は履修指定科目です。受講生は担当教員の指導の下、心理学のいくつかのテーマに関する実験を行います。実験の意義と目的、実験方法、実験結果の整理と分析、そして結果に基づく考察を含めたレポートを受講生一人ひとりが作成し、提出します。実習に参加することによって、心理学実験の手続きに関する理解を深めることができます。実験手続きに関する知識は、総合心理学部の講義科目で述べら

れている様々な研究への理解を深めることになり、心理学が研究対象としている現象への興味を一層強めることになるでしょう。

3 回生秋学期と 4 回生に、それぞれ、「臨床・実践演習（心理演習）」と「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」が配置されています。「臨床・実践演習（心理演習）」では、臨床・実践場面で用いられる技術を、模擬場面を用いて体験的に学習します。面接、アセスメント、介入、カウンセリングなどの基礎的技能を、担当教員の指導を受けながら修得することが実習の目的です。「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」では受講生が学外の施設を心理学的観点から見学し、実践の場で使われている知識と技術に関する聞き取り調査を行い、レポートを作成します。調査した内容を受講生全体で共有するために発表と討論を行います。

科目名	単位数	配当年次
心理学実験Ⅰ	1	1 回生
心理学実験Ⅱ	1	2 回生
臨床・実践演習（心理演習）	1	3 回生
臨床・実践フィールドワーク（心理実習）	1	4 回生

「臨床・実践演習（心理演習）」および「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」については、履修に伴う条件があります。詳しくは、「Ⅱ - 12. 臨床実践教育」の説明を見てください。

Ⅱ - 11. 多様なアクティブラーニング

アクティブラーニングとは、日本語に直せば「能動的な学び」です。その反対はパッシブラーニングであり「受動的な学び」です。

総合心理学部でのアクティブラーニングの第 1 の柱となるのが、実験実習とフィールドワーク系の科目です。充実した実験施設を活用して系統的に編成された実験実習科目と、地域や現場と連携したフィールドワークにより実感と深い納得をともなった実践力を養成することが可能になります。

また、アクティブラーニングの第 2 の柱となるのが、小集団で行われる演習科目です。総合心理学部では、毎年、小集団による学びの機会があります。すなわち「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を 1 回生時に、「展開演習」を 2 回生時に、「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を 3、4 回生で履修することによって、専門的な学力とともにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、幅広い応用力を育成します。小集団ですから、教員との距離も近く、仲間との距離も近いいため、より積極的な学びが可能になります。そして、4 年間の学修の集大成として卒業論文を執筆し、その成果を発表します。

忘れてならないのは、PBL 方式の授業です。総合心理学部では、「プロジェクト発信型英語」「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅷ」がこれに該当します。

英語の学習は、高校までの授業とは異なり、発表を重視するものになります。人に伝えることを第一に考えるプロジェクト発信型英語によって、実践的な英語能力を形成することが可能になります。「プロジェクト発信型英語」は学習プロジェクトの発表とスキル形成学習の組み合わせから構成されています。

「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅷ」は教員の研究プロジェクトに参画できる科目です。プログラミングや文献の講読など、学生が各教員の専門的な研究や、海外プロジェクト等に参加し、研究の実感を体験する科目です。

また、「国内フィールドスタディ」（発達・キャリアユニット）や「海外フィールドスタディ」（英語アドバンスユニット）といったフィールドワーク型の科目も開設しています。学部全体を通して、アクティブな学びを可能にするのが総合心理学部のカリキュラムなのです。

Ⅱ - 12. 臨床実践教育

臨床分野の教育の位置づけと目標

立命館大学総合心理学部の特色として、心理学の研究を行っていく上で必要な基礎能力を涵養する教育の徹底と、心理学関連の多方面で活躍する教員がそろっていることの 2 点が挙げられます。この特色を活かした臨床実践教育を行います。すなわち、基礎心理学の知識と方法による、科学的に現象を理解し実証的に考察できる能力を備えた学生を育成するという、これまでの土壌に臨床教育の土台を構築していくことが望まれます。

総合心理学部では、臨床の学びを広い人間理解を基盤にして専門的な知識と技術を体系的

臨床分野の教育の位置づけと目標 (続き)

各回生での学び

に学ぶ教育を展開します。「経済と人間」、「家族と人間」、「組織と人間」などの学びを基盤に、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」（1回生秋学期・2回生春学期）を通して実証的な心理学の基礎的スキルを学修します。「臨床心理学概論」（2回生春学期）では、臨床心理の分野からの人の見方を学んでいきます。また、「心理的アセスメント」（2回生秋学期）では、アセスメントの技術を学びながら、認知、性格、情緒、行動、対人関係・社会性などの人間行動を観察、分析する視点を学修します。3回生秋学期には、「臨床・実践演習（心理演習）」を通して、臨床実践の具体的な技法を、ロールプレイを通して修得し、4回生には「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」を通して、対人援助の領域で活躍する人との対話を通して、臨床実践の在り方や自身の課題に注目する学修を行い、大学院への学びへとつなげていきます。

【1回生での学び】

臨床心理学は心理学では応用領域に位置するので、1回生に臨床心理学の科目は設定しません。しかし、心理学の基礎的スキルを学習する科目（「リテラシー入門」、「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」、「心理学実験Ⅰ」）、心理学の基礎知識を学習する「心理学概論」や専門科目の概論科目、世界に関する認識と人間理解を深める総合人間理解科目と教養科目などしっかりと学習すべき科目は少なくありません。

【2回生での学び】

2回生では臨床心理学の基礎理論に関する科目（「臨床心理学概論」）で臨床心理学の全体を見渡して修得することで、3回生以降の応用的な心理臨床学に臨む素地とします。それに併せて、医療的な観点から人間を理解する素地を養うことも重要です。関連する科目として「医学総論（人体の構造と機能及び疾病）」と「精神疾患とその治療」が挙げられます。また、「心理的アセスメント」では個人差を査定する技法に関する基礎知識を学習します。

【3回生での学び】

3回生では、認知行動療法、家族療法、ナラティブ療法、芸術療法、学校カウンセリングなどの心理学的支援法に関する様々なアプローチと理論を学びます。また、カウンセリング面接、グループ面接、認知行動療法、家族療法などをロールプレイで体験してレポートでまとめる「臨床・実践演習（心理演習）」を秋学期に開講します。

【4回生での学び】

4回生に「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」として、臨床関連機関（病院、矯正関連施設、児童相談所、学校など）および企業などへの訪問調査とインタビューを行う実習を実施します。臨床実践そのものは大学院で修得すべきものであり、学部生は臨床実践場面に関する基礎的知識や関連する技能を身につけるように努力すべきです。臨床実践場面での調査・見学の体験をレポートとしてまとめることは、大学院での臨床実践に関する本格的な学びの基礎になります。

【実習科目】

「臨床・実践演習（心理演習）」と「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」については、以下の科目が履修条件になります。

科目名	履修条件となる科目	条件
臨床・実践演習（心理演習）	心理学実験Ⅰ	単位取得
	心理学実験Ⅱ	単位取得
	臨床心理学概論	単位取得
	心理的アセスメント	単位取得
臨床・実践フィールドワーク（心理実習）	心理学実験Ⅰ	単位取得
	心理学実験Ⅱ	単位取得
	臨床心理学概論	単位取得
	心理的アセスメント	単位取得
	臨床・実践演習（心理演習）	受講

「臨床・実践演習（心理演習）」については、履修条件となっている上記科目の単位取得が必要です。「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」については、「臨床・実践演習（心理演習）」

理演習)」の履修条件となっている科目の単位取得に加えて、「臨床・実践演習（心理演習）」の受講が履修条件になります。

「臨床・実践演習（心理演習）」と「臨床・実践フィールドワーク（心理実習）」の定員は60名です。受講希望者が定員を超える場合、履修条件となっている上記科目の成績評価内容、学部専門科目の履修状況、および受講登録手続に必要な志望理由書の内容などを考慮して総合的に選考を行います。

Ⅱ - 13. 卒業研究

「卒業研究」は、総合心理学部における大学4年間の学びの集大成です。「卒業研究」は、自分の興味を絞り込んで研究テーマを設定することに始まり、関連文献の調査、実験やフィールドワークなどの研究手法の検討と計画、研究の実行、結果の分析と考察などを経て、最終的に卒業論文を執筆した後、発表会や論文集を通して研究成果を世の中に発信することまで含みます。

こうした一連の作業を遂行する能力は、一朝一夕に身に付くものではありません。大学に入学してから、総合心理学部の授業や課外活動の中で少しずつ身に付けてきた知識やスキルを活かして、主体的に取り組む必要があります。その意味で「卒業研究」は学びの集大成なのであり、だからこそ、以下に述べるように、「卒業研究」を遂行するためには、その一連の過程の中で、総合心理学部の教育目標となっている5つの事柄の全てが必要になります（以下の括弧内は教育目標の番号を表します）。

まず、自分自身の研究テーマを設定するためには、過去の研究を網羅的にサーベイして理解する必要があります。そうした過程では、先入観にも囚われることなく、同時に、他人の考えを鵜呑みにすることなく分析的に考えること、つまり、科学的で批判的な思考が必要になります（教育目標1）。また、新奇で有益な研究を行うためには、一面的で偏った見方に凝り固まるのではなく、開かれた視点から、人間の心を総合的で多面的に理解する必要があります（教育目標2）。

こうした研究を完遂するためには、強い意志と粘り強さが必要であるだけでなく、教員や先輩などの目上の人や友人などの同僚といった他者とのコミュニケーションや協力が不可欠になる場面も少なくありません（教育目標3、4）。さらには、総合心理学部における「卒業研究」の研究対象は「人」である場合が多く、実験参加者や調査協力者とも適切にコミュニケーションをとることが必要になってきます（教育目標3、4）。

こうして得られたデータは、そのままでは何も語ってくれません。高度な科学的手法を駆使してデータを客観的に分析し、そこから導出されることを論理的に考える必要があります（教育目標4）。以上のようにして実施された研究は、論文という形で他人の目に触れられるものによって完成します。自分の考えを説得的に主張することによって、はじめて意義のある論文になります（教育目標4）。

このように、「卒業研究」には研究を行うだけでなく、論文という形で他人の目に触れられるものによって含まれます。研究成果を論文という形に仕上げることは、大きな苦勞が伴います。しかし、「卒業研究」は研究ですから、「卒業研究」に携わることは、たとえ一時的にしても、研究者になることを意味します。研究は単なる趣味とは違いますので、研究者には研究成果を公開する使命があると考えてください。「卒業研究」では、研究の社会的意義について、こういった観点からも考えられるようになることを目標にしています（教育目標5）。

更に、「卒業研究」は卒業論文を書いて提出したらそれで終わりではなく、卒業研究最終審査会での発表および質疑応答についても成績評価の対象となっています。研究活動においては、上述したような成果の発信や、他者の意見を踏まえてより良い研究へ繋げることも重要です。最後まで粘り強く取り組んでください。

Ⅱ - 14. 他学部受講

立命館大学では、総合大学としてのメリットを活かし、他学部で開講されている専門科目を受講することができます。これを、他学部受講制度といいます。ただし、安易に他学部受講を希望するのではなく、あくまでも学修計画に基づいて受講してください。（詳細は下表を参照）

全ての専門科目が受講できるわけではありません。また、受講定員を定めている科目もあります。

受講資格	3 回生以上
登録可能単位数	他学部受講科目は、既に修得した単位数も含め、登録は 8 単位までしかできません。
単位認定	8 単位を上限に卒業に必要な単位（専門科目）として認められます。
登録方法	受講定員制限の有無により、登録方法が異なります。
受講定員制限がある場合	抽選科目登録をしなければなりません。抽選科目登録期間内に申込みをしてください。許可された科目は事務室で登録しますので、自身で受講登録する必要はありません。
受講定員制限が無い場合	本登録期間内に自身で受講登録をしてください。
受講可能科目の確認	manaba+R「総合心理学部生のページ」→「総合心理学部の履修」→「他学部受講について」で確認してください。科目の内容については、シラバスで確認できます。
抽選科目登録期間および 抽選結果確認方法	「履修・登録の手引き（別冊）」参照

Ⅱ - 15. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に当該科目のカリキュラム上の位置づけに対応する番号を付すことで、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。

C	C	P	2	1	A	0	1	0	1	J
学士	学部・学科	カリキュラム年度	科目区分	配当回生	分類番号	使用言語				
①		②	③	④	⑤	⑥				

① 3 桁のアルファベットで学部・研究科・全学横断科目の区分を表しています。

総合心理学部開講科目 CCP、教養科目：CGE

② 2 桁の数字はカリキュラム年度を表しています。

③ 2 桁のアルファベットで科目区分を表し、学部則と対応させています。

【科目区分コード】

A	外国語ユニット	0	—
B	基礎ユニット	0	—
C	専門科目	1	認知・行動ユニット（知覚・認知領域）
		2	認知・行動ユニット（行動・科学領域）
		3	発達・キャリアユニット（発達・支援領域）
		4	発達・キャリアユニット（キャリア・組織領域）
		5	社会・文化ユニット（社会・共生領域）
		6	社会・文化ユニット（文化・共生領域）
D	アドバンスド科目	1	英語アドバンスドユニット
		2	研究法アドバンスドユニット
		3	プロジェクト研究ユニット
		4	特殊講義ユニット
E	小集団科目	1	実験・実習ユニット
		2	演習・卒業研究ユニット

④ 1桁の数字で配当回生を表しています。

番号	内容
1	学部 1 年次配当
2	学部 2 年次配当
3	学部 3 年次配当
4	学部 4 年次配当

⑤ 整理番号として 2 桁の数字で分類番号を表しています。

⑥ 1 桁のアルファベットで使用言語を表しています。

J	日本語
E	英語
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1 授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）※

※全学の運用と同様に、J はシラバスが日本語のもの、E はシラバスが英語のものを基本とする。
ただし、授業の内容としては両言語を使用としているものはシラバスの記載にかかわらず学部の判断により M とする。

以上

総合心理学部 科目ナンバリング

1. 教養科目

科目名	科目ナンバリング
日本の近現代と立命館	CGE20RA101-J
ピア・サポート論	CGE20RA102-J
ジェンダーとダイバーシティ	CGE20RA103-J
メディアと現代文化	CGE20RA104-J
市民と政治	CGE20RA105-J
日本国憲法	CGE20RA106-J
災害と安全	CGE20RA107-J
歴史観の形成	CGE20RA108-J
科学・技術と社会	CGE20RA109-J
実践データ科学	CGE20RA110-J
現代平和論	CGE20RA111-J
戦争の歴史と思想	CGE20RA112-J
平和人権フィールドスタディ	CGE20RA213-J
哲学と人間	CGE20AA101-J
人間性と倫理	CGE20AA102-J
論理と思考	CGE20AA104-J
社会思想史	CGE20AA105-J
科学技術と倫理	CGE20AA106-J
宗教と社会	CGE20AA107-J
（留）日本の文化・地理・歴史	CGE20AA109-J
メディアと図書館	CGE20AB101-J
社会学入門	CGE20AB102-J
文化人類学入門	CGE20AB103-J
文学と社会	CGE20AB104-J

科目名	科目ナンバリング
現代の教育	CGE20AB105-J
世界の言語と文化	CGE20AB106-J
世界と日本の食文化	CGE20AB107-J
観光学	CGE20AB108-J
京都学	CGE20AB109-J
(留) 日本語学	CGE20AB210-J
美と芸術の論理	CGE20AC101-J
音楽原論	CGE20AC102-J
映像と表現	CGE20AC103-J
映像メディア実践入門	CGE20AC104-J
文芸創作論	CGE20AC105-J
国の行政組織	CGE20AD101-J
現代社会と法	CGE20AD102-J
経済と社会	CGE20AD103-J
現代日本の政治	CGE20AD105-J
現代の国際関係と日本	CGE20AD106-J
日本経済概説	CGE20AD107-J
現代の世界経済	CGE20AD108-J
現代の経営	CGE20AD109-J
社会と福祉	CGE20AD110-J
ソーシャルデザイン論	CGE20AD111-J
(留) 日本の社会・政治	CGE20AD112-J
(留) 日本の経済・経営	CGE20AD113-J
エリアスタディ入門	CGE20AE101-J
新しい日本史像	CGE20AE102-J
中国の国家と社会	CGE20AE103-J
東アジアと朝鮮半島	CGE20AE104-J
ヨーロッパの歴史	CGE20AE105-J
アメリカの社会と文化	CGE20AE106-J
イスラーム世界の多様性	CGE20AE107-J
科学的な見方・考え方	CGE20AF101-J
宇宙科学	CGE20AF102-J
地球科学	CGE20AF103-J
生命科学 (分子と生命)	CGE20AF104-J
生命科学 (生物と生態系)	CGE20AF105-J
現代環境論	CGE20AF107-J
科学と技術の歴史	CGE20AF108-J
生命科学と倫理	CGE20AF109-J
近現代の科学技術	CGE20AF110-J
(留) 日本の自然・科学技術	CGE20AF111-J
数理の世界	CGE20AG101-J
情報の数理	CGE20AG102-J
情報科学	CGE20AG103-J
情報技術と社会	CGE20AG104-J
統計学	CGE20AG105-J

科目名	科目ナンバリング
データサイエンス・AI 基礎	CGE20AG106-J
データエンジニアリング基礎	CGE20AG107-J
Liberal Arts Seminar	CGE20BA101-B
Introduction to Humanities	CGE20BA111-E
Understanding Language	CGE20BA118-E
Computers in Education	CGE20BA119-E
Understanding Visual Culture	CGE20BA123-E
Cross Border Policy Issues	CGE20BA125-E
Playing with Playfulness	CGE20BA126-E
Introduction to Global Justice	CGE20BA127-E
Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	CGE20BA128-E
Cross-cultural Encounters 1	CGE20BB101-M
Cross-cultural Encounters 2	CGE20BB102-B
Cross-cultural Studies	CGE20BB103-E
Cross-cultural Seminar	CGE20BB104-E
Academic Skills 1	CGE20BC101-M
Academic Skills 2	CGE20BC102-E
グローバル社会の体験と理解	CGE20BC105-E
Intensive Language Workshop	CGE20BC106-E
Language for Academic Communication	CGE20BC107-E
Global Project-Based Learning	CGE20BC108-E
Area Study I	CGE20BC109-E
Area Study II	CGE20BC110-E
Global Study	CGE20BC111-E
Academic Communication (Online Learning)	CGE20BC112-E
Area Study (Online Learning)	CGE20BC113-E
社会と学ぶ課題解決	CGE20CA101-J
学びとキャリア	CGE20CA102-J
仕事とキャリア	CGE20CA203-J
コーオブ演習（理論）	CGE20CA204-J
コーオブ演習（実践）	CGE20CA205-J
地域参加学習入門	CGE20CB101-J
現代社会とボランティア	CGE20CB102-J
現代社会のフィールドワーク	CGE20CB103-J
シチズンシップ・スタディーズ	CGE20CB204-J
スポーツの歴史と発展	CGE20DA101-J
スポーツと現代社会	CGE20DA102-J
スポーツのサイエンス	CGE20DA103-J
現代人とヘルスケア	CGE20DA104-J
スポーツ方法実習 I	CGE20DB101-J
スポーツ方法実習 II	CGE20DB102-J
教養ゼミナール	CGE20EA101-J
異文化間テーマ演習	CGE20EA102-J
超領域リベラルアーツ	CGE20EA303-J

2. 総合心理学部開講科目

科目名	科目ナンバリング
英語 P1	CCP21A0101-M
英語 S1	CCP21A0102-E
英語 P2	CCP21A0103-M
英語 S2	CCP21A0104-E
英語 P3	CCP21A0205-M
英語 S3	CCP21A0206-E
英語 P4	CCP21A0207-M
英語 S4	CCP21A0208-E
(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	CCP21A0109-J
(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	CCP21A0110-J
(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	CCP21A0111-J
(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	CCP21A0112-J
(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	CCP21A0113-J
(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	CCP21A0114-J
(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	CCP21A0215-J
(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	CCP21A0216-J
(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	CCP21A0217-J
(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	CCP21A0218-J
リテラシー入門	CCP21B0101-J
心理学統計法 I	CCP21B0102-J
総合心理学入門	CCP21B0103-J
心理学概論	CCP21B0104-J
心理学研究法	CCP21B0105-J
社会の中の心理学	CCP21B0106-J
心理学史	CCP21B0107-J
プログラミング入門	CCP21B0208-J
臨床心理学概論	CCP21B0209-J
精神疾患とその治療	CCP21B0210-J
医学総論 (人体の構造と機能及び疾病)	CCP21B0211-J
公認心理師の職責	CCP21B0312-J
関係行政論	CCP21B0313-J
認知心理学概論 (知覚・認知心理学)	CCP21C1101-J
神経・生理心理学	CCP21C1202-J
認知科学	CCP21C1203-J
知覚心理学	CCP21C1204-J
学習・記憶心理学	CCP21C1205-J
応用認知心理学	CCP21C1206-J
色彩論	CCP21C1307-J
思考心理学	CCP21C2201-J
行動分析学 (学習・言語心理学)	CCP21C2202-J
応用行動分析学 (学習・言語心理学)	CCP21C2203-J
心理的アセスメント	CCP21C2204-J
認知行動療法論 (心理学的支援法)	CCP21C2205-J
障害者・障害児心理学	CCP21C2306-J

科目名	科目ナンバリング
発達心理学概論（発達心理学）	CCP21C3101-J
乳幼児心理学	CCP21C3202-J
青年心理学	CCP21C3203-J
発達臨床心理学	CCP21C3204-J
福祉心理学	CCP21C3205-J
児童心理学	CCP21C3206-J
中高年心理学	CCP21C3207-J
進化心理学	CCP21C3208-J
教育・学校心理学	CCP21C3209-J
言語発達論	CCP21C3310-J
学校カウンセリング論（心理学的支援法）	CCP21C3311-J
経済と人間	CCP21C4201-J
組織と人間	CCP21C4202-J
国内フィールドスタディ	CCP21C4203-J
組織行動論（産業・組織心理学）	CCP21C4204-J
行動経済論	CCP21C4205-J
キャリア形成論	CCP21C4306-J
社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	CCP21C5101-J
司法・犯罪心理学	CCP21C5202-J
実験社会心理学	CCP21C5203-J
コミュニティ心理学	CCP21C5204-J
芸術療法論（心理学的支援法）	CCP21C5305-J
家族療法論（心理学的支援法）	CCP21C5306-J
感情・人格心理学	CCP21C5307-J
ナラティブ療法論（心理学的支援法）	CCP21C5308-J
健康・医療心理学	CCP21C5309-J
文化心理学	CCP21C6201-J
メディア心理学	CCP21C6202-J
家族と人間	CCP21C6203-J
政治と人間	CCP21C6304-J
人間観の探求	CCP21C6305-J
現代人間論	CCP21C6306-J
ジェンダー心理学	CCP21C6307-J
海外フィールドスタディ	CCP21D1201-M
専門英語（心理学）Ⅰ	CCP21D1302-M
専門英語（心理学）Ⅱ	CCP21D1303-M
心理学統計法Ⅱ	CCP21D2101-J
量的研究法	CCP21D2202-J
質的研究法	CCP21D2203-J
心理調査法概論	CCP21D2204-J
心理学データ解析法Ⅰ	CCP21D2205-J
心理学データ解析法Ⅱ	CCP21D2206-J
心理学統計法特殊講義	CCP21D2307-J
プロジェクト研究Ⅰ	CCP21D3101-B
プロジェクト研究Ⅱ	CCP21D3102-B

科目名	科目ナンバリング
プロジェクト研究Ⅲ	CCP21D3203-B
プロジェクト研究Ⅳ	CCP21D3204-B
プロジェクト研究Ⅴ	CCP21D3305-B
プロジェクト研究Ⅵ	CCP21D3306-B
プロジェクト研究Ⅶ	CCP21D3407-B
プロジェクト研究Ⅷ	CCP21D3408-B
総合心理学特殊講義Ⅰ	CCP21D4201-B
総合心理学特殊講義Ⅱ	CCP21D4202-B
総合心理学特殊講義Ⅲ	CCP21D4203-B
心理学実験Ⅰ	CCP21E1101-J
心理学実験Ⅱ	CCP21E1202-J
臨床・実践演習（心理演習）	CCP21E1303-J
臨床・実践フィールドワーク（心理実習）	CCP21E1404-J
基礎演習Ⅰ	CCP21E2101-J
基礎演習Ⅱ	CCP21E2102-J
展開演習	CCP21E2203-J
専門演習Ⅰ	CCP21E2304-J
専門演習Ⅱ	CCP21E2305-J
専門演習Ⅲ	CCP21E2406-J
専門演習Ⅳ	CCP21E2407-J
卒業研究	CCP21E2408-J

Ⅲ. 学部横断プログラム

1. 海外留学について
2. 大学間単位互換制度

Ⅲ - 1. 海外留学について

海外留学を計画する にあたって

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保護者と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集・選考を行いますので、日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定試験の受験など、早めの準備を心掛けましょう。なお、長期留学に参加する場合は、その時期や期間、履修状況によって4年間での卒業ができなくなる可能性があります。事前に学部事務室または学びステーションで相談したうえで、海外留学の計画を行いましょう。

海外留学プログラムの 種類

	全学募集の海外留学プログラム	各学部・教学機関の海外留学プログラム
主催	国際教育センター	各学部・教学機関
対象	全学部学生（一部を除く）	所属学部学生（一部他学部生も可）
区分	留学を通じて「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的・目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、以下の通り、留学の「ねらい」ごとに海外留学プログラムを類型しています。 〈留学の「ねらい」〉 ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	学部教学に関連した内容のプログラムが展開されています。 学部によっては、中期間／長期間のプログラムも提供されています。 詳細は、主催する学部または教学機関にお問い合わせください。

* 各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどで確認してください。

* 上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。 また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（※1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、総合心理学部事務室に相談してください。（※2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（※3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（※4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

※1:「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 11.留学」を参照してください。

※2:「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 4.受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同学位プログラム（DUDP）は除く）。

※3:「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 6.成績および単位授与・認定」を参照してください。

※4:休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 9.休学」を参照して、事前に総合心理学部事務室に相談してください。

大学で得られる海外留学に関する情報について

①全学募集の海外留学プログラムについては「海外留学プログラムホームページ」、学部・教学機関の海外留学プログラムについては各学部・教学機関のホームページから確認してください。

②Beyond Borders Plaza（BBP）では、海外留学に役立つ情報発信や企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plaza のホームページから確認してください。

〈海外留学プログラムホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページには以下のQRコードからアクセスできます〉

【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plaza ホームページ】



③国際教育センター

- ・「海外留学の手引き」などのパンフレットを配布しています。
- ・過年度参加者の報告書など、様々な留学関連の資料を常設しています。
- ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
- ・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

Ⅲ - 2. 大学間単位互換制度

立命館アジア太平洋 大学 (APU) 交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学(以下、APU) の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

1. 交流学生プログラム

①制度の概要

半年(春学期/秋学期)または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- ・10月頃/4月頃 募集ガイダンス
- ・11月/5月頃 交流プログラムへの出願
- ・12月/7月頃 履修者許可発表および許可者ガイダンス
- ・3月下旬/9月中旬頃 出発
- ・4月/9月下旬頃 APUで履修開始

③単位認定

- ・認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・認定される区分：総合心理学部の指定による
- ・認定評価：T評価

2. サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション(夏集中講義)科目を受講できるプログラムです。受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・6月頃 履修科目の出願(指定のWEB上から毎年度1科目出願可)
- ・7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・8月上旬頃 APUのサマーセッション(夏集中講義)科目受講期間
- ・9月中旬頃 APUで成績発表
- ・9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・認定時期：春学期
- ・認定される区分：総合心理学部の指定による
- ・認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

3. 詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

IV. キャリア形成・資格取得

1. 大学院進学
2. 総合心理学部での学びをもとにした関連する資格

IV - 1. 大学院進学

2018年4月に、大阪いばらきキャンパスに人間科学研究科が設置されました。人間科学研究科の博士課程前期課程は心理学領域、臨床心理学領域、実践人間科学領域の3領域で構成されています。

大学院に進学する理由はいくつかあります。まず、学部での学びをさらに深めることが挙げられます。卒業研究を通して得られた知見を国内外の到達点に照らしてより高度なものへと洗練させ、研究者のコミュニティに関係し、知的な成長を遂げていくことを目指します。研究を深めるためには博士課程後期課程に進学し、アカデミックキャリアを形成していくことで研究者を目指します。大学院博士課程前期課程（あるいは修士課程）を修了すると修士号、大学院博士課程後期課程（あるいは博士課程）を修了すると博士号を得ることができます。なお、博士課程後期課程進学者には日本学術振興会の研究員制度があり、大学院在学中に給与を得ることも可能です。

高度職業人を目指すための進路としても大学院が存在します。博士課程前期課程を修了後、高度な専門性を生かして企業に就職したり、公務員になったりする進路を選択する場合も多くあります。現在、公認心理師、臨床心理士、学校心理士等の資格があります。大学院博士課程前期課程の修了者に対して受験資格を付与する、あるいは履修証明をもとに認定されるといういくつかの資格があります。博士課程前期課程での研鑽を重ねていくことでより高度な職業人として活躍の場が広がります。

IV - 2. 総合心理学部での学びをもとにした関連する資格

公認心理師

公認心理師については、国の法律である公認心理師法と文部科学省・厚生労働省の省令である公認心理師法施行規則によって定められています。公認心理師の業務については、以下のように定められています。

- 保健医療、福祉、教育その他の分野において、専門的知識及び技術をもって、
1. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
 2. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
 3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
 4. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

公認心理師になるためには、公認心理師の試験に合格しなければなりません。公認心理師の受験資格を得るためには大学で必要な科目を修めて卒業し、かつ、大学院（博士前期課程あるいは修士課程）で必要な科目を修める必要があります。詳細は一般財団法人日本心理研修センターのHPを確認してください。総合心理学部では公認心理師試験の受験に必要な科目を以下のように定めています。

公認心理師法施行規則に定める科目	対応する総合心理学部の科目
1. 公認心理師の職責	1. 公認心理師の職責
2. 心理学概論	2. 心理学概論
3. 臨床心理学概論	3. 臨床心理学概論
4. 心理学研究法	4. 心理学研究法
5. 心理学統計法	5. 心理学統計法Ⅰ 心理学統計法Ⅱ (単位取得した1科目を申請)
6. 心理学実験	6. 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ (単位取得した1科目を申請)
7. 知覚・認知心理学	7. 認知心理学概論(知覚・認知心理学)
8. 学習・言語心理学	8. 行動分析学(学習・言語心理学) 応用行動分析学(学習・言語心理学) (単位取得した1科目を申請)
9. 感情・人格心理学	9. 感情・人格心理学
10. 神経・生理心理学	10. 神経・生理心理学
11. 社会・集団・家族心理学	11. 社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)
12. 発達心理学	12. 発達心理学概論(発達心理学)
13. 障害者・障害児心理学	13. 障害者・障害児心理学
14. 心理的アセスメント	14. 心理的アセスメント
15. 心理学的支援法	15. 認知行動療法論(心理学的支援法) 学校カウンセリング論(心理学的支援法) 家族療法論(心理学的支援法) ナラティブ療法論(心理学的支援法) 芸術療法論(心理学的支援法) (単位取得した1科目を申請)
16. 健康・医療心理学	16. 健康・医療心理学
17. 福祉心理学	17. 福祉心理学
18. 教育・学校心理学	18. 教育・学校心理学
19. 司法・犯罪心理学	19. 司法・犯罪心理学
20. 産業・組織心理学	20. 組織行動論(産業・組織心理学)
21. 人体の構造と機能及び疾病	21. 医学総論(人体の構造と機能及び疾病)
22. 精神疾患とその治療	22. 精神疾患とその治療
23. 関係行政論	23. 関係行政論
24. 心理演習	24. 臨床・実践演習(心理演習)
25. 心理実習	25. 臨床・実践フィールドワーク(心理実習)

認定心理士

日本心理学会認定心理士とは、公益社団法人日本心理学会（以下、日本心理学会）が認定する心理学の基礎資格で、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを認定するものです。

資格取得については、複数の申請方法があり、また、非常に厳格な科目取得が求められます。詳細は、日本心理学会のホームページに記載されていますので確認してください。

日本心理学会ホームページ：<http://www.psych.or.jp/>

認定心理士 (心理調査)

認定心理士（心理調査）は、日本心理学会が認定する資格で、心理学研究法の知識や技術を用いて、個人の嗜好、考え方や意見、態度、性格傾向、環境と人の関係性、等を捉えるための調査を行うことのできる「調査の専門家」のことです。つまり、社会（企業・学校などの職場、大学院、社会活動）において、調査ができる人材であり、心理学の学びを活かせる資格であると同時に社会からも期待されている資格です。

認定心理士（心理調査）は、心理学に関する知識を修得することに加え、実際にデータをとって分析する力を身に付けたと認められる人が得ることのできる資格です。この資格の要件は、①学部卒業、および②認定心理士（心理調査）対応の科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラム内容に対応した科目単位を取得することです。

V. 学びの支援

1. 学生への援助制度

V - 1. 学生への援助制度

小集団教育推進補助費

立命館大学では、小集団クラスや自主ゼミを対象として以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

立命館大学では、学びの基礎単位となる基礎演習、研究入門、演習、卒業研究のクラス・ゼミを教学の基軸におき、①「小集団教育の単位」と②「大学自治の単位」としての性格をもつものとして位置づけています。小集団教育推進補助費は、この2つの位置づけをもつクラス・ゼミの集団的学習と自治活動への援助を主要な目的とし、各クラス・ゼミなどで使用できます。詳細は総合心理学部事務室が作成する手引きをご確認ください。

「クラス資料印刷用 ID」による援助：クラスで使用する授業レジュメ、その他クラス活動に必要な資料の印刷

「学部共通費」：総合心理学部が定める執行計画に基づく経費

自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、総合心理学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、様々な援助を行う制度です。自主ゼミとして認められるには、総合心理学部事務室に登録する必要があります。詳細は、manaba+R「総合心理学部生のページ」を確認してください。

VI. 施設紹介

1. 大阪いばらきキャンパスでの学び
2. 総合心理学部の施設
3. ここらぼスクエアとデータ解析室
4. 総合心理学実習ステーション

VI - 1. 大阪いばらきキャンパスでの学び

大阪いばらきキャンパス（OIC）は立命館大学の新たなキャンパスとして2015年4月に開設されました。キャンパス内には、授業を行う教室や学びステーションに加えて、図書館、保健センター、体育館、トレーニングルーム、セミナーハウス、大ホールなどが設置されています。

キャンパスは茨木市の防災公園である岩倉公園と隣接しています。また、キャンパス内には地域住民と協力して樹木を植林する里山エリアがあります。キャンパス内の一部の施設は茨木市との協力によって市民も利用可能です。OICは地域との連携・交流が可能な緑豊かな学びの空間です。

キャンパス内の建物はA棟、B棟、C棟、D棟、H棟と呼ばれます。A棟1階に学びステーションがあります。A棟とC棟の1階から4階には講義を行う教室、演習などで利用されるセミナールーム、グループでのテーマ学習で利用されるラーニングスタジオ、コンピュータを用いた授業を行うメディアルーム、そして、大学に集う人々の共有空間であるコモンズなどが配置されています。

VI - 2. 総合心理学部の施設

A棟6階には総合心理学部の学生が利用できる施設と設備があります。この階にある各種の実習室や実験室は実習科目や卒業研究などで利用します。ここらばスクエアとデータ解析室は学生が自主的に利用できます。総合心理学部実習ステーションは、6階の施設と設備を管理・運営するための部屋です。

VI - 3. ここらばスクエアとデータ解析室

ここらばスクエアとデータ解析室は、総合心理学部生の自主的な学習を支援するための空間です。「ここらば」は「こころ」と「コラボレーション」をつなぎ合わせて作った造語です。この部屋では、プレゼンテーションの練習を行ったり、グループで話し合ったり、調べ物をしたり、資料を作成したりすることができます。データ解析室にはコンピュータが設置されています。コンピュータには実験や調査を準備するためのソフトや、データを分析するためのソフトが備わっています。

VI - 4. 総合心理学実習ステーション

総合心理学部の学生がA棟6階の施設を利用するときには、総合心理学実習ステーションに勤務している特任助教に相談してください。部屋の管理や設備の利用の仕方についてアドバイスを受けることができます。実習ステーションの隣には備品室と印刷室があります。備品室には、実習や卒業研究で使用する備品類が置かれています。印刷室には、調査用紙などを印刷するためのプリンターと作業を行うための机があります。これらの部屋は総合心理学部の実習や卒業研究が円滑に行われるために設置されています。

Ⅶ. 総合心理学部学部則

学部則については、ホームページに記載しています。

manaba+R「総合心理学部生のページ」→「総合心理学部の履修」→「学部則」をクリック

